

沼津高専だより

第116号

令和2年3月12日発行

独立行政法人国立高等専門学校機構

沼津工業高等専門学校

〒410-8501 沼津市大岡3600

TEL 055-921-2700 URL <http://www.numazu-ct.ac.jp/>



高専祭テーマ「響音（ハーモニー）」の人文字



高専祭



東海北陸地区ロボコン大会



文化講演会

目次

☆沼津工業高等専門学校 の 目的、教育目標、養成すべき人材像、学生受入方針	
☆校長・副校長・校長補佐から（令和元年度総評）	
進級・卒業の判定と沼津高専	…………… 学校長 藤本 晶 …… 4
2020年を迎えて	…………… 副校長（総務主事・教務主事） 小林隆志 …… 5
令和元年度を振り返って	…………… 校長補佐（学生主事） 高野明夫 …… 6
学生寮を振り返って	…………… 校長補佐（寮務主事） 川上 誠 …… 6
成長が楽しみな専攻科生たち	…………… 校長補佐（専攻科長） 稲津晃司 …… 7
☆各学科から（令和元年度総評）	
働き方改革と言うが	…………… 機械工学科長 三谷祐一朗 …… 7
ゆるキャラ電鬼丸、学びの伝承Eスタ、ものづくりEプロ、そして卒業	…………… 電気電子工学科長 西村賢治 …… 8
1年を振り返って	…………… 電子制御工学科長 牛丸真司 …… 8
シンギュラリティを乗り越える優れた技術者になろう	…………… 制御情報工学科長 長縄一智 …… 9
2019年度の物質工学科を振り返って	…………… 物質工学科長 大川政志 …… 9
沼津高専という環境を活かして成長を	…………… 教養科長 佐藤崇徳 …… 10
☆国際交流センターから	
沼津高専における国際化の取り組みについて	…………… 国際交流センター長 鈴木久博 …… 10
沼津高専で学ぶ留学生達	…………… 留学生支援委員長 川上 誠 …… 11
世界標準の“おもてなし”を目指して	…………… 海外交流委員長 後藤孝信 …… 11
☆部活動	
第54回全国高等専門学校体育大会入賞者一覧	…………… 13
第57回東海地区国立高等専門学校体育大会入賞者一覧	…………… 13
第6回全国高等専門学校弓道大会東海・北陸地区予選入賞者	…………… 13
☆行事・コンテスト・その他イベント	
体育祭：新しい体育祭	…………… 体育祭実行委員長 電気電子工学科4年 加藤亮大 …… 14
高専祭：高専祭だより	…………… 高専祭実行委員長 電子制御工学科4年 岩崎竜星 …… 14
知財の寺子屋活動報告：KV-BIKEと駿河湾深海調査は未来への扉	…………… 知財のTKY顧問 大津孝佳 …… 15
ロボットコンテスト2019：小さな、でも、確実な一歩 ～ロボコン部の挑戦～	…………… ロボコン部顧問 電子制御工学科 青木悠祐 …… 16
小さな一歩	…………… ロボコン部部长 電気電子工学科3年 榊原あおい …… 16
☆退職教職員から	
万年過渡期	…………… 総務課 八木正行 …… 17
☆卒業生・修了生から	
高専生活を振り返って	…………… 電子制御工学科5年 山崎蒼人 …… 17
ここから本番	…………… 制御情報工学科5年 勝又将斗 …… 18
僕は高専7年生	…………… 医療福祉機器開発工学コース2年 日原 究 …… 18
☆私の高専時代	
高専の思い出	…………… 制御情報工学科6期 松本祐子 …… 19
☆学生の研究活動（2019.4.1～2020.3.31）	
…………… 19	
☆令和元年度卒業生・修了生進路先一覧	
…………… 26	
☆教育後援会から	
高専の強みは協働により更に高められる！	…………… 教育後援会会長 井出 悟 …… 29
☆同窓会から	
同窓会へようこそ	…………… 同窓会会長 木戸 実 …… 29
☆お知らせ	
海外留学プログラムについて	…………… 30
令和2年度前期授業料の免除および徴収猶予について	…………… 30
各種奨学金について	…………… 31
沼津高専意見箱について	…………… 33
令和2年度（令和2年4月～令和3年3月）行事予定表	…………… 33

沼津工業高等専門学校 の 目的、教育目標、 養成すべき人材像、学生受入方針

教育理念

人柄のよい優秀な技術者となって世の期待にこたえよ

目 的

本高専は、豊かな人間性を備え、社会の要請に応じて工学技術の専門性を創造的に活用できる技術者の育成を行い、もって地域の文化と産業の進展に寄与することを目的とする。

養成すべき人材像

社会から信頼される、指導力のある実践的技術者

学生受入方針

以下の意欲、および学力を有する者を受け入れる

- 科学技術に興味を持ち、入学後の学習に対応できる基礎学力を有する者
- 科学技術を用いて社会に貢献する意欲の有る者
- 科学技術の役割、技術者の責任を考えられる者
- 他人の意見を聞き、自らの意見を言える者

本 科

教育方針

1. 低学年全寮制を主軸とするカレッジライフを通じて、全人教育を行う。
2. コミュニケーション能力に優れた国際感覚豊かな技術者の養成を行う。
3. 実験・実習及び情報技術を重視し、社会の要請に応え得る実践的技術者の養成を行う。
4. 教員の活発な研究活動を背景に、創造的な技術者の養成を行う。

学習・教育目標

本高専は、学生が以下の能力、態度、姿勢を身につけることを目標とする。

1. 技術者の社会的役割と責任を自覚する態度
2. 自然科学の成果を社会の要請に応じて応用する能力
3. 工学技術の専門的知識を創造的に活用する能力
4. 豊かな国際感覚とコミュニケーション能力
5. 実践的技術者として計画的に自己研鑽を継続する姿勢

専 攻 科

教育方針

創造的な知性と視野の広い豊かな人間性を備えた技術者を育成するため、融合複合・新領域分野をテーマとする専攻科実験の実施、長期インターンシップによるエンジニアリングデザインの実務体験、専攻科研究のマンツーマン指導などを

教育方針としており、これらの教育方針の下に以下の学習・教育目標を達成する。

学習・教育目標

- A 社会的責任の自覚と地球・地域環境についての深い洞察力と多面的考察力
- (A-1) 「異なる文化、価値観」や「自然との調和の必要性」を理解し、工学技術上の課題に対して地球・地域環境との調和を考慮し行動することができる。
- (A-2) 「工学倫理」および「社会問題に対して技術者の立場から適切に対応する方法」を理解し行動することができる。
- B 数学、自然科学及び情報技術を応用し、活用する能力を備え、社会の要求に応える姿勢
- (B-1) 数学、自然科学及び情報技術の知識を、環境エネルギー工学、新機能材料工学、医療福祉機器開発工学等の複合・融合領域に派生する社会的ニーズに応えるために活用することができる。
- C 工学的な解析・分析力及びこれらを創造的に統合する能力
- (C-1) 機械工学、電気電子工学、情報工学、応用化学、生物工学、材料工学などの専門的技術を身につけ、これらの技術を複合的に活用して、環境エネルギー工学、新機能材料工学、医療福祉機器開発工学等の分野に創造的に応用することができる。
- (C-2) 工学的に解析・分析した情報やデータをパソコン等により整理し、報告書にまとめることができる。
- (C-3) 社会のニーズに応えるシステムを構築するために、エンジニアリングデザインを提案できる。
- D コミュニケーション能力を備え、国際的に発信し、活躍できる能力
- (D-1) 日本語で、自己の学習・研究活動の経過を報告し、質問に答え、議論することができる。
- (D-2) 自己の研究成果の概要を英語で記述し、発表することができる。
- E 産業の現場における実務に通じ、与えられた制約の下で実務を遂行する能力並びに自主的及び継続的に自己能力の研鑽を進めることができる能力と姿勢
- (E-1) 工学技術に関する具体的な課題にチームで取り組み、その中で担当する実務を適切に遂行することができる。
- (E-2) 日常の業務や研究に関連した学会等が発行する刊行物を、定期的・継続的に目を通して実務に応用することができる。

校長・副校長・校長補佐から（令和元年度総評）



進級・卒業の判定と 沼津高専

学 校 長
藤 本 晶

年度末が近づいてきました。学生はもちろん、保護者の方々も、進級や卒業判定の結果に気を揉まれているかと思えます。この文章が活字になって、みなさんの目に触れる頃には、進級や卒業の判定が済んでいるかもしれません。昨年度末には進級判定の結果に、一部の教員から疑問が投げかけられました。学生や保護者の中にも同様の疑問を抱く方もおられるようです。そこで進級および卒業判定について述べさせていただこうと思います。

基本的に次の学年に進級するには、当該学年の全受講科目が及第でなければなりません。沼津高専を含む多くの高専では単位制の考えを取り入れて、各学年で定められた累積単位数を満たすこと等で進級を認めています。これに加えて他高専では、進級基準を満たさなくても一定の要件を満たせば、学生の希望の下で仮進級させる制度を持っています。進級先の学年で落とした単位を取れば、元の学年に戻る「仮」の進級です。仮進級のための条件は、各高専で独自に定められています。

進級判定の基となるのは、各科目の成績です。各科目にはシラバスに記載されている到達目標があります。その目標に対して修得率が60%以上ならば単位が与えられます。到達目標は、デュプロマポリシー（DP）の形で社会に公表している、卒業生が社会で活躍するのに必要な能力を基に逆算して決定されます。科目担当者が、自身の経験等を基に独自に決められるものではありません。それぞれの学科が、各学年で要求される内容やレベルを議論した上で、学校として決めるべきものなのです。

各科目の成績を集めると、定められた進級規定に基づいて及落の原案が出てきます。この原案を基に、普段の学修への取り組みや学生の置かれた状況等、個々の事情を考慮して進級や卒業の可否を判定会議で検討することになります。検討した結果は、必ずしも原案通りになる訳ではありません。沼津高専には仮進級の制度は定められていませんが、次の学年でリカバリーが可能と判断した学生には、学生の意思を確認した上で仮の進級を認めています。

進級させるか、あるいは原級留置（留年）にするかは、次の学年に進んだ時に学業について行けるか否かが基準になります。ある学生の特定の科目の成績が極めて悪い場合等は、学生がその科目の勉強を怠ったことを疑うのと同時に、その科目の到達目標や教える内容、それに試

験の難易度が適切だったのか等も検証する必要があります。成績が振るわない原因を学生だけに押し付けるのではなく、教える側の問題の有無も考慮する必要があります。

留年は高専に限らず、大学でも起こります。しかし高専と大学とを比較すると、幾つか違いもあります。例えば「特定の科目の不合格」で留年する割合は、大学全体が30%程度なのに対して、高専では84%に上ることです。単位制と学年制の違いはありますが、それ以上に高専では担当教員の評価が、学生の留年決定に大きく影響していることが判ります。また「学業不振」で退学する割合も、大学が10～15%なのに対して、高専では倍以上の34%もあります。

これらの数字から、高専がまずいと一概には断言できません。しかし改善の余地はあるでしょう。個々の科目の判定結果が重要なのは当然ですが、それと同時に落とした単位がどのくらいあるか等、全体を見ることも必要です。高専は中学卒業生に5年間の技術者教育を行って社会に人財を輩出する教育機関です。入学を許可した学生を5年後に卒業させるのが沼津高専の役割となります。全員を5年間で卒業させることはできていませんが、一定以上の学生を5年間で卒業させる必要があります。

どのくらいの割合の学生を5年間で卒業させる（5年間で卒業する割合：5年卒業率）のが適切なのか、参考になるのは大学の4年卒業率でしょう。文部科学省によれば、大学全体での平均は、ここ数年、ほぼ80%となっています。沼津高専の5年卒業率もここ数年は80%前後で推移しています。数字から見ると大きな問題は無いように思えますが、国立の学校で地元の優秀な中学生が入学していることや、少人数のきめ細かな教育を行っていることを考えると、もっと高くあるべきだと思います。

どのくらいの割合を5年で卒業させるべきなのか？人によって意見は異なると思いますが、私は5年卒業率90%程度を目指すべきだと思っています。このためには各学年で1クラス当たりの留年者を1人（2%）以下にする必要があります。これでも1クラス40名が入学すると、そのうち4名は6年以上かかることになるのです。高専が5年制の学校であることを考えると、なんとかこの程度の卒業率は実現したいと思います。

5年卒業率の確保が必要だと言うと、「無理に進級させると沼津高専のレベルが下がるのでは」と心配する向きが、教職員や、学生の中にもあります。「誰でも進級、卒業させるのか！？」等と極端なことをいう人までいます。確かにレベルが下がる面もあるでしょう。しかしレベルを保つために進級や卒業をさせない等というやり方には賛成できません。5年で卒業する学生の数を確保しながらレベルも保つように努力することが、沼津高専関係者

に求められます。

このためには、地道に学生の教育に当たることが必要になります。きめ細かい教育をどれだけできるか？それが学校の能力、すなわち教育力になります。教育力を高めることで、学校のレベルと5年卒業率の両方を上げるのです。そのために「学習サポートセンター」を作りました。設置から4年が経ち、そこでは勉強に励む学生が常に見られるようになりました。今後は少しでも多くの学生、そして真にサポートが必要な学生がセンターに集ってくれることを期待したいものです。

高専機構全体でも、留年や退学者の削減を目指しています。モデルコアカリキュラム（MCC）の設定もその一端です。MCCは高専で学ぶべき必要最低限の基本的な内容で構成されています。全ての学生にMCCの内容を理解させることで、高専全体の高度化を目指しています。進級や卒業判定でも、MCCが基本になります。もちろん従来通り、高度な、難しい内容も扱いますが、高度な難しい内容の理解度が低いからといって、進級や卒業をさせないというのは考えものです。

入学させた学生を如何にして育てるかが教育機関に課された使命です。そこでは教員が「知識を与える」のではなく、学生が主体的に学修を続けられるように「学ぶ力を身に付けさせる」ことが求められます。最近盛んに耳にする「アクティブ・ラーニング」もそれに沿った手法の一つでしょう。自らの知識を押し付けて「教師のレプリカ」を作るのではなく、学生が自ら育つ手助けをして、「教師を超える人財」に学生を育てることが求められるのです。

「何を教えたか？」から「何が身に付いたか？」に教育も変わろうとしています。そのためには学習への動機付けが必須になります。何事も自らやろうとした事は身に付きますが、やらされた事は身に付き難いのです。沼津高専は勉学意欲のある学生を受け入れています。如何にしてその意欲を5年間維持させるかが、教員の力量となります。学生の学業不振を「学生が勉強しないから」等と一方的に決めつけることは、天に唾していることと同じなのです。



2020年を迎えて

副校長
(総務主事・教務主事)
小林 隆 志

卒業される皆さん、卒業おめでとうございます。皆さんは元号が令和に代わって初めての卒業生です。今年2020年は東京オリンピック・パラリンピックが開催される記念すべき年でもあり、皆さんにとって大変思い出深い卒業式になることと思います。卒業する皆さんが活躍する将来にはどんな未来が広がっているのでしょうか。トヨタ自動車は最近、実証都市「コネクティッド・シティ（つながる都市）」を裾野市に建設することを発表しました。AI（人工知能）などの技術を利用して、自動運転車、ロボットなどのモノとサービスをつなげる構想です。燃料電池や太陽光発電を活用して、温室効果ガスの発生も抑制することです。来年には建設が始まります。完成が大変楽しみです。急速な技術革新の中で大企業でも大きな変化を求められる時代ですが、皆さんが将来の技術革新の主役です。高専での学びと経験を礎として、皆さんの発想力を発揮し、新しい時代を切り拓く技術者として活躍されることを願っています。

本校では、平成24年に学際教育を導入し、学科横断型の3分野専門教育（環境エネルギー分野、新機能材料分野、医療・福祉分野）を実施してきました。導入時の1年生が本科5年、専攻科2年を修了した7年を過ぎたところで、学際教育を発展的に分野横断型の共通科目として改編することとしました。急速に変化する技術者教育

への要請に柔軟に対応するためです。在学中のカリキュラム変更となりますが、対象となる本科1・2年生の学生の皆さん、保護者の皆様には変更の趣旨をご理解いただきありがとうございます。これからも社会の動向に注意を払いながら、保護者・卒業生・学生の皆さんからの意見・要望に耳を傾けて教育改善に努めていきたいと考えています。

高専教育に対する社会からの期待を背景に、今年の入学志願者は307名と、数年ぶりに倍率は1.5倍を超えました。入試広報にお力添えいただいた教育後援会の皆様に感謝いたします。一方で、昨年の出生数は予想より早く90万人を切ったとの報道もあり、少子化は今後一層進展してきます。このような社会環境の中で、技術者育成を使命とする沼津高専が持続的に発展していくためには、社会の要請に応え教育改革を行うとともに、高専教育の魅力を中学生の皆さんに発信していくことが大切と考えています。これからも教職員一丸となって教育・研究・社会貢献に邁進し、新しい時代の技術者教育をリードする沼津高専であり続けるよう努力してまいります。

この3月で4年間の教務主事としての任を終え、新年度からは現専攻科長の稲津先生にバトンを渡します。新年度は引き続き総務主事として学校運営に協力してまいります。これまでのご支援に感謝いたしますとともに、引き続き保護者の皆様のご理解とご支援をお願い申し上げます。



令和元年度を振り返って

校長補佐（学生主事）
高野 明夫

今年も1年間を振り返ると様々なことがありました。交通事故・交通指導関係、学生生活支援関係、就職活動支援関係について報告いたします。

まず交通事故ですが、今年は4月から1月30日現在までに19件の報告がありました。自転車走行中が8件、原付走行中が7件、その他が4件でした。一昨年が合計16件、昨年在13件でしたので、件数としては残念ながら増えています。しかしながら、以前のような両腕両足鎖骨骨折や、皮膚の移植をしなければならないような大事故はなく、接触等の比較的小規模な事故が多くなっています。また、帰宅後の事故が10件で、登下校中の9件を上回っているのも今年の特徴です。帰宅後に家の車を運転して事故にあったというケースが3件ありました。

交通指導としては、4月の原付講習、年に数回の路上指導のほか、1月に交通講話を実施しました。交通講話は、自転車事故が多いことに鑑み、4月から寮を出て自転車通学する者が多くなる現2年生を対象に実施しました。講師には、静岡県自動車学校沼津校から2名、東京サイクルデザイン専門学校から1名をお招きしました。後者は、自転車安全整備士の資格を持つ本校卒業生でも

あります。交通法規や交通事故にあわないための知識のほか、「ぶたはしゃべる」＝「ブレーキ・タイヤ・反射板・車体・ベル」など、覚えやすいキーワードで自転車点検の要点などを講演いただきました。学生にはとても好評でした。

次に学生生活支援です。今年はカウンセラー3名、スクールソーシャルワーカー1名、看護師2名の体制で、学生生活支援室長を中心に学生支援をしてまいりました。精神科医についても、年度後半に入ってから対応いただけるようになりました。また今年の新たな試みとして、学生会と協力して「ピアサポート」を実施しました。カウンセラーによる相談件数は半期だけで300件に迫っており、学生生活支援室の重要性はますます高まっていくものと思われます。

最後に就職活動支援関係です。まず就職内定状況ですが、現時点で本科就職希望者101名中100名が内定しており、専攻科は就職希望者17名全員が内定しております。年度の終わりには内定率は100%になる見通しです。来年度に向けて、今年もすでに、本科生及び専攻科生を対象とした進路支援のための様々なイベントを開始しています。1月19日就職面接講座、2月25/27日企業合同説明会（名古屋／東京）、2月28日就活メイク講座、3月5日沼津高専就職祭、そして4月と5月には約2か月間の就職模擬面接を実施予定です。

本年度も残りわずかとなりましたが、今後とも保護者の皆様のご協力とご支援をよろしくお願いいたします。



学生寮を振り返って

校長補佐（寮務主事）
川上 誠

早いもので、今年度の寮生活も1ヶ月を切ってしまいました。入寮時には不安と緊張の塊だった1年生も、今ではすっかり寮生活に慣れ、充実した日々を過ごしています。いろいろと制約のある寮生活ですが、クラスや学年を超えた仲間との共同生活をし、その中でさまざまな問題に直面しながらも、自分たちで解決し成長していく姿に頼もしさを感じています。とくに寮生会役員は、一つの組織を引っ張っていくトップ集団そのものです。現在は来年度の役員への引継ぎが行われており、今年度と来年度の寮三役を中心に、毎日忙しく動き回っています。学年末試験も近づいて来ており、何とか勉強と両立させて乗り切りたいと思います。

来年度、秀峰寮が取り壊され、その後に新寮が建設されることになりました。当初、2棟が建て替えられるという情報があり、一時的に100名以上減る定員にどのよ

うに対応したらいいか頭を抱えてしまいました。最終的に秀峰1棟だけの建て替えになりましたが、それでも来年度は60名近い定員が減るという現実があります。来年度、再入寮を希望している在校生や自宅から通える新入生にお願いするしかありません。4年生以上の学生は大学生に相当する学年ですので、アパート等での生活を考えてもらうよう保護者の皆さまにはご協力をお願いするのみです。新寮は高専機構で統一規格の建物になります。1つのユニット内で6、7名の留学生やチューター、日本人学生が生活し、このユニットが10個あります。建物自体は半分に仕切られており、ある程度フレキシブルな運用が可能だと考えられます。建設にはほぼ1年かかりますので、その間にどのような運営をしていくかじっくり検討できると考えています。

今年度の寮生会が活躍してくれたことの一つに、近隣自治会の防災会議に参加してくれたことがあります。寮長や委員長が定例会議に参加し、12月には近隣住民と合同で避難訓練を実施しました。日曜日でしたが、多くの寮生が参加してくれました。体育館ではドローンによる映像などを紹介したり、避難所のモデルハウスを展示したりとみんな頑張ってくれました。寮生の集合時間が少し遅く、近隣の皆さんを待たせてしまうという課題が

残りでしたが、非常にいい試みだったと思います。私の任期はこの3月で終わりますが、これからも寮生と教職員が協力して、よりよい寮になるよう見守って行きたい

と思います。2年間ありがとうございました。引き続き、保護者の皆さまの変わらぬご支援とご協力のほど、よろしくお願いたします。



成長が楽しみな 専攻科生たち

校長補佐（専攻科長）
稲津 晃司

平素から専攻科の教育研究活動にご理解、ご協力いただき、まことにありがとうございます。社会の要請に応えられる、創造的な知性と視野の広い豊かな人間性を備えた技術者を育成すべく、今年度も専攻科では新しい試みを行いながら、専攻科生諸君に学修に励んでもらいました。

今年度2年生27名は、苦勞の程度は様々でしたが、全員がそれぞれの就職先からの内定や進学先からの合格を得ることができました。自信をもってさらなる成長の場に進んでもらいたいと思います。これに続く1年生25名は、海外の大学や学内インキュベーション施設、未来創造ラボトリー入居企業を含む、多様な実習先で4ヶ月間の学外実習で研鑽を積み、事故や怪我なく本校に戻ってきました。

今年度の新しい試みは、2年生必修科目「知的財産」を一般財団法人知的資産活用センターからの寄附講座として、7月から9月に夏期集中講座で実施したことです。全国高専でも数少ない寄附講座授業であるだけでなく、

「協創的パートナーシップの理論と実践」と銘打った、分野横断的アクティブラーニングとモノづくりに関わるファストピッチを交互に組み合わせた、国内初の複合スキームでの実施でした。企業経営者、大学教授、研究機関研究員、マスコミ関係者、そして弁理士といった多様な講師陣による刺激的な授業で、グループワークやディスカッション、課題と、ホットな時期にハードな受講でしたが、学生諸君はしっかりやり切って貴重な学修経験を得ました。成果を修了後のステージで生かしてくれると信じます。

2年生諸君は、専攻科課程の画竜点睛となる専攻科研究発表会においても、昨年度同様に英語による口頭研究発表を見事にやり遂げてくれました。まだ幼ささえ残る様子に頼もしさを感じるとともに、卒業や修了ののちの「伸びしろ」は、専攻科生が一番ではないかと感じさせてくれました。

高専本科学生が、卒業後深く専門を学びたい、実践的かつ創造的な技術者としての素養を高めたいと考えたときの最適な進学先は、専攻科だと信じます。専攻科が学生諸君にとっても、社会にとっても、より魅力的になるように、また、修了生が沼津高専の技術者教育の完成形にふさわしい能力と人間性を身に付けて社会で活躍できるよう、継続して改善に取り組んでまいります。専攻科へのご支援とご協力をよろしくお願いたします。

各 学 科 か ら （令和元年度総評）



働き方改革と言うが…

機械工学科長
三谷 祐一朗

今年度を振り返りますと、一般世間は働き方改革を推進し、残業には理由書の提出が求められるなどと聞きますが、昨年度にも増して忙しかったというのが実感でした。

例えば高専全体の動きとして、高学年科目の学修単位化を進めることで、対面授業を減らし、自主学習を促しています。沼津高専でも今年度、学修単位化を行いました。私の担当するM5のシステム制御工学基礎は、もともとグループワーク中心の課題達成型の授業でしたが、今年度は説明を半分に減らし、残りは資料を頼りに学生

が自力で学ぶ状況となりました。その結果、学生からの質問が激増し、時間外に課題に取り組む学生まで現れました。結局、私の拘束時間は減るところかむしろ増大したのですが、そんな学生の姿を見て、学修単位化はある意味成功だと感じました。

また、沼津高専としては、留年や退学を少しでも減らし、学生たちが安心して学べる場とすることで、高専に対する中学からの評価を高め、より優秀な中学生に来てもらいたい、ということがあります。優秀な学生が来れば留年が減り、教員の教育活動の効率化が望めるという、良い循環を期待してのことかと思います。そこで、私が担当する科目において、前期の成績が思わしくない学生を、一人一人時間を決めて部屋に呼び、勉強の仕方、レポートの作り方、試験対策の仕方などを指導することを始めました。これも結果として、私の拘束時間はとても増えました。ですが、指導している科目とは異なる、私が担当する電気の科目での、指導をした学生およびその

クラスの勉強への姿勢や雰囲気が大幅に改善され、M科の学生なのに、「電気が楽しい」という声まで聞こえてきました。

働き方改革と言いますが、物理的な勤務時間を制限す



ゆるキャラ電鬼丸、学びの伝承Eスタ、ものづくりEプロ、そして卒業

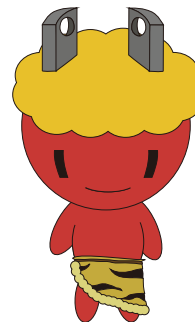
電気電子工学科長
西村 賢治

かつて電気電子工学科では、学生に頼んで、学科を象徴するゆるキャラを考えてもらいました。そしてあの電鬼丸が生まれました。作ってくれた学生達はすでに卒業していますが、彼らが残してくれた電鬼丸は大人気で、今年はファミリーが増えました。ほぼ同じ頃から、学生間による学びの伝承の場として、Eスタ（E科スタディプロジェクトの略称）を構築してきました。一言で言うなら先輩が後輩に学びを伝える場ですが、名前はやはり学生がつけてくれたもので、インスタに近い発音から採用したそうです。黎明期はさすがに教員が主導していましたが、すぐに志のある学生が次々と集まり、自然と学生が主導して、勉強方法とこのプロジェクトの企画・運営・実施も含めた、ノウハウを学生間で引き継いでいく場へ体制が変わっていきました。これ以外にもEプロ（E科プロジェクト）といって、授業では物足りない学生が、電気部品を使ってこんな作品あったらいいな、便利だなと、何人かで集まって作成する場もあります。さらには、電気電子工学科の学生だけではないですが、電池自転車

るよりも、学生を愛し、教育内容や方法の真の改善から、学生の自主的な学習への意欲が向上し、その結果として時間と心に余裕を持てる状況になれば、と思います。

レースでは本校が上位常連校となっていて、近隣の市が主催している発明クラブ出身の中学生を本校学生が指導して一緒に大会に出場し、中学生部門で連続優勝という結果に導いています。どれもこれまで在籍していた学生たちが、成し遂げてくれました。

この春卒業する本学科の皆さんも、下級生のころからこれら学生主導の活動にたくさん関わり、自分を磨きながら、学科の活性化にも貢献してくれました。様々な場で協力を求めましたが、そのひとつひとつに心から感謝しています。皆さんにとってそれら経験が、希望する進路を勝ち取ることと今後の人生を生きていく中で少しでも役に立つなら、そういった場を提供できたことは我々職員一同の喜びです。卒業しても、皆さんに続く後輩のために、これからも応援をお願いします。5年生の皆さん、その保護者の皆様、卒業おめでとうございます。



電鬼丸



電鬼丸子



1年を振り返って

電子制御工学科長
牛丸 真司

保護者の皆様におかれましてはますますご健勝のこととお慶び申し上げます。日頃、電子制御工学科における教育と学科運営にご理解とご協力を賜りまして、心から感謝申し上げます。

本年度の5年生の卒業予定者は38名で、その進路は1月末時点で、就職が14名、進学が22名（大学編入学11名、沼津高専専攻科10名、専門学校1名）、進学希望（次年度大学受験）1名、就職活動中1名となっています。学科説明会でも説明させて頂いたとおり、就職についてはたいへんな売り手市場で8割ほどの学生が第1志望の企業から内定をもらっています。一方進学については希望した大学への進学が叶わなかった学生も多くいますが、そ

れぞれの進学先で志を新たに踏み出していてくれることを期待しています。

昨年8月、10月にD5とD4の学生が相次いで急性の心疾患で亡くなるという、たいへん悲しい出来事がありました。クラスメイトや部活が同じだった学生などには大きなショックがありましたので、学生がいつでもカウンセリングを受けられるようにメンタルケアのための特別な体制を取りました。ここに改めてお二人のご冥福をお祈りします。

さて例年この原稿を執筆している1月末は、5年生は卒業研究発表、4年生はMIRS発表会を目前に控えて、それに向けて奮闘しているところです。また、その後直ぐに、進級・卒業がかかる学年末試験に臨むこととなります。どの学年の学生にとっても、試験を終えるまでの期間は1年の中で一番きつい時期となりますが、ここを歯を食いしばって乗り越えることで「その先」が見えてきます。この原稿が掲載される頃に、全員が「その先」を見ていることを願っています。

今年度は9名の体制で学科運営を行ってきましたが、

令和2年度は4月から博士課程を修了したばかりの新任教員1名を迎え、本来の10名体制となる予定です。教員一同、全力で学生指導にあたっていきますので、保護者

の皆様のご支援・ご協力を今後とも宜しくお願い申し上げます。



シンギュラリティを乗り越える 優れた技術者になろう

制御情報工学科長
長 縄 一 智

「2045年に人工知能が人間の脳の能力を超える、いわゆるシンギュラリティ（技術的特異点）に到達する。」と米国の人工知能研究の世界的権威であるレイ・カーツワイルらが示した未来予測の概念があります。この予測が正しければ、昨今話題となっているAI(Artificial Intelligence)やRPA（Robotics Process Automation）、そして、IoT(Internet of Things)技術の急速な発展と、それらの利用技術の開発が進む中、従来型の仕事の多くは、大きくその姿を変えることでしょう。2045年といえば、現在高専に学ぶ学生たちの多くが、中堅技術者として技術革新の真ただ中で活躍している時期です。その頃にはAI等に置き換わった分野の技術者需要は廃れ、技術者は知恵を絞って、AI等を応用する技術を開発したり、AI等では実

現できないような技術に取り組んだりしていることは容易に想像できるでしょう。制御情報工学科出身のエンジニア達は、この新たな社会と技術に溶け込み、これまでとは全く異なったビジネスモデルやモノづくりなどを生み出していくことが大きく期待されます。これまで、ロボットやコンピュータと言えば、人が行っていた比較的単純作業を置き換えるものでしたが、これからのAIやRPAは、知的労働に携わっていた人からもその仕事を奪うと見られています。従って、技術者として生き残っていくためには、たゆまなく自らの生産性や質的向上を図り、AIやRPAに置き換えられない技術を身に着けることが必要となるでしょう。さて、今年度5年生の主な就職先としては、浜松ホトニクス、小松製作所、日立造船、ローランド、テルモ、キャノン、日本たばこ産業などです。一方進学では、本校専攻科進学の他に、筑波、電気通信、東京農工、広島、早稲田等の各大学編入となりました。最後になりましたが、学科長初年度の年、保護者の皆様や関係各位には、色々と至らぬ点もございましたが、何卒ご容赦の程宜しくお願いいたします。



2019年度の物質工学科を 振り返って

物質工学科長
大 川 政 志

保護者の皆様をはじめ関係各位の皆様、本年度も物質工学科の教育・研究活動にご支援いただき誠にありがとうございます。2019年度の物質工学科の状況をお伝えいたします。

本年度の物質工学科での大きな変更点は、1年生の一般科目の化学の授業が増えたことと4年生の海外研修です。混合学級により1年生の化学の授業時間が減少しましたが、化学の基礎を早めに学んで身につけて欲しいという教員の考えの元、今年から他学科の2倍になりました。本年度は、物質工学科教員がこれらの科目を担当しましたが、教員からも1年生の頑張っている姿を聞いております。4年生は台湾で3泊4日の海外研修を行いました。現地では、大学生との交流やビール工場、市内観光をして異文化に触れてまいりました。初めての海外研修のため至らない点などがあったかもしれませんが、来年度以降に向けて改善できる点は見直して、実りある研修にしていきたいと考えております。

本年度の5年生の進路についてお知らせします。就職

内定者は19名、進学内定者は20名となっています。4月初めに内々定をうける学生もおり、多くの学生が第一希望の就職先から内定をいただきました。また、研究・開発職や研究補助職などの求人も多くなってきており高専生に対する企業からの期待の高さも感じられました。進学希望者は、専攻科への入学や東京工業大学や東北大学をはじめとした国立大学へ編入学を決めております。編入試験への取り組みが十分でなかったのか、第一希望としている進学先を逃す学生も多くみられました。この経験をもとに進学先でも勉学に励んでもらえたらと思っております。

最後に、三留准教授が4月より大学へ転出されることになりました。来年度は11名の教員で、学生の教育指導に全力で取り組んでまいります。保護者をはじめ関係者各位のご支援とご協力をお願いいたします。





沼津高専という環境を 活かして成長を

教養科長
佐藤 崇徳

本紙が刊行される頃には、卒業判定会議も終わって、卒業される皆さんはあとは卒業式だけとなっていることでしょう。卒業される皆さん、おめでとうございます。個人的な話で恐縮ですが、私は本科1年の地理の授業をしている一方で、専攻科2年生を対象にした授業科目も担当しています。その専攻科の受講生のなかには、6年前、本科1年生のときに私が担任した学生もいます。歲月の流れと学生の皆さんの成長には感慨深いものがあります。

さて、5年間（専攻科まで含めると7年間）もの長い勉学の道を歩んでいる途上の皆さんにお伝えしたいことです。高専での勉学は決して容易なものではなく、思うような成果を出せないこともしばしばあることでしょう。なかには不合格となる授業科目がいくつもあって進級基準を満たせず、留年せざるをえない場合も出てきます。これは教える側の私たち教員にとっても大変残念なことです。そのような事態をなんとか減らしたいと個々の教員も学校組織も考えを巡らせています。学習サポートセ

ンターが運営する「Fuji Café」、「礎塾」など、学生の皆さんの勉学をサポートする体制もありますので、一人でも多くの皆さんに活用してほしいと思います。

一方で、そうした「底上げ」にのみ注力するのではなく、やる気と成長力のある学生の皆さんのさらなる成長を手助けすることも大切なことです。数学の鈴木正樹先生の指導のもと課題研究「数学を用いた防災教育」に取り組んだ4名の学生（2年、3年）は、1月に福岡県で開催された高専シンポジウムで研究成果を発表しました。別の4名の学生（3年、4年）は課題研究「立体視で見る伊豆半島ジオパーク」に取り組み、昨年12月に伊豆半島ジオパークミュージアム「ジオリア」（伊豆市）で展示をおこないました。また、11月の高専祭のときには物理の住吉先生ほかのご尽力により高エネルギー加速器研究機構の研究者に来ていただいて講演会が開催されました。学生の皆さんの周りにはこのように様々な機会があります。こうした環境をうまく使って自分を成長させてほしいと願っています。

最後に教養科の教員の異動をお知らせします。数学の松澤寛先生が神奈川大学へ転出されます。また、英語の西口美津子先生は嘱託教授として2年間お勤めになりましたが、再雇用期間満了となります。化学の小林美学先生は人事交流制度により1年間東京高専に勤務していますが、4月から沼津に復帰されます。

国際交流センターから

沼津高専における 国際化の取り組みについて

国際交流センター長
鈴木 久博

グローバル化とともに、技術者にも言語や文化が異なる人たちと関わり、協力し、問題を解決してゆく能力が求められるようになっていきます。本校では、そのような時代の要請に応えるべく、以下のような二つの取り組みをしています。

一つは、三年次に編入し、他の学生と同じように授業を受け、五年次卒業を目指す海外からの留学生受け入れです。これには、日本政府の奨学金で就学する留学生、母国の政府の奨学金で就学する留学生、および私費による留学生の三つの形があります。留学生自身のためでもあります。受け入れる本校日本人学生が身近に異文化を体験できる機会となっています。この件は留学生支援委員会が担当しています。

もう一つは短期での学生の海外派遣です。本校学生が

海外に行く場合もありますが、海外の協定校の学生が本校を先行としてやってくる場合もあります。後者の場合には受け入れ先の研究室の学生を中心に、やはり本校学生が異文化に触れる機会を提供しています。これらの担当は海外交流委員会です。

以下にこれらの委員会の2019年度の活動報告をします。



沼津高専で学ぶ留学生達

留学生支援委員長
川上 誠

本校では、現在7名の留学生が在籍しています。国別にしますと、マレーシア2名、モンゴル、インドネシア、タイ、ベトナム、スリランカがそれぞれ1名です。

イベント等への参加状況について紹介します。11月9日(土)には3年生と4年生の留学生1名ずつが「2019 NICE にほんごスピーチ発表会」に出場しました。11月2、3日の高専祭では、留学生が母国の概要や各国の多彩な文化などを紹介する「留学生の部屋」を開催しました。留学生にとっては、日本人学生だけでなく、地域の方々と触れ合うことにより、コミュニケーション能力を磨く貴重な機会となりました。11月24日(日)には「2019 国際交流フェアinぬまづ」に全留学生が参加し、自作のポスター

などを使ってそれぞれの母国紹介を行うとともに、ブースを訪れた来場者には留学生が用意した食品の試食やお菓子などを配りました。12月8日(日)には「伊豆半島の自然と人々の暮らし」をテーマに伊豆・修善寺方面に研修旅行に出かけました。文化資産などの見学を通して日本文化に触れ合い、伊豆半島の成り立ちを学ぶことから地球の動きの一端を目の当たりできる良い機会となりました。12月21日(土)には東海地区の留学生交流会に参加しました。午前中はトヨタ産業技術記念館にて日本のものづくりに関する近代化産業遺産を見学し、午後の交流会では他高専の外国人留学生とゲームや課題に取り組み、積極的に交流しました。

日ごろ、外国人と接する機会の少ない本校の学生にとっても、母国を離れて一生懸命に勉学に励む留学生の姿は、良い刺激を与えてくれていると感じています。ふだんの生活の中での係わり合いこそが本当の意味での国際交流だと思いますし、今後もより多くの留学生が沼津高専で学び、日本人学生との交流が普通に行われることを望んでいます。

世界標準の“おもてなし”を目指して

海外交流委員長
後藤孝信

本年度は、機構本部が交流協定を結んでいるキングモント工科大学ラカバン校(タイ)と昨年度に本校が交流協定を締結したウソク大学(大韓民国)から合計6名の学生を受け入れると共に、ウェスタンミシガン大学

(アメリカ合衆国)を始めとする海外の大学や企業に合計16名の学生を派遣することができました。

学生デモにより、香港への派遣(1名)が中止となったことは大変残念ですが、学生が派遣先で良い待遇を受けることを願いつつ、受け入れ学生には良い思い出を沢山作って欲しいと考え、様々な企画を実施して一年間を無事に終えることができました。企画の立案と実施にご協力いただきました関係者の皆様には、この場をお借りして厚く御礼申し上げます。今後も良い関係で海外交流ができれば嬉しく思います。



たこ焼きパーティー(左上)、剣道体験(右上)、研修旅行(左下)、修了式(右下)

学生の海外派遣等一覧（令和元年度）

	名 称	期 日	参加学生	訪問（研修）先
派 遣	トビタテ！留学JAPAN日本代表プログラム	令和元年 7月27日～8月17日	1名 (本科3年生)	Global Village Calgary (カナダ)
	テクニカルチャレンジプログラム 2019@香港（中止）	令和元年 8月17日～8月25日	1名 (専攻科2年生)	香港VTC/IVE (Sha Tin Campus) (中華人民共和国)
	国際シンポジウムISTS 2019	令和元年 10月6日～10月14日	2名 (本科5年生、 専攻科2年生)	キングモンクット工科大学ラカパン校 (タイ)
	専攻科長期インターンシップ	令和元年 10月30日～12月27日	3名 (専攻科1年生)	クモ工科大学 (大韓民国)
	海外インターンシップ	令和2年 3月2日～3月20日	1名 (本科5年生)	小松製作所 (インドネシア)
受 入	Short Study Program for the KMITL Students	令和元年 6月17日～7月17日	2名	キングモンクット工科大学ラカパン校 (タイ)
	Training Program for Woosuk University Students	令和元年 7月4日～7月18日	4名	ウソク大学校 (大韓民国)



部 活 動

第54回全国高等専門学校体育大会入賞者一覧

競技名	種目名	成績	クラス	氏名
陸上競技	男子の部	走幅跳	8位入賞	D5 瀧口 周
	女子の部	走高跳	7位入賞	C3 大庭 瑤子
水泳競技	男子の部	200m背泳ぎ	3位	D1 富永 悠陽

第57回東海地区国立高等専門学校体育大会入賞者一覧

競技名	種目名	成績	クラス	氏名	
陸上競技	男子の部	走幅跳	優勝	D5 瀧口 周	
		砲丸投	優勝	E4 塩川 史也	
	女子の部	走高跳	3位	C3 大庭 瑤子	
ソフトテニス競技	男子個人の部	準優勝	M5	岩崎 佑武	
	ダブルス		D4	藤森 元太	
水泳競技	男子の部	100m平泳ぎ	優勝	D5 山崎 蒼人	
		200m平泳ぎ	優勝	E1 橋戸 颯太	
		200mバタフライ	2位	E1 鈴木 歩夢	
		100m背泳ぎ	優勝	D1	富永 悠陽
		200m背泳ぎ			
		100m背泳ぎ	2位	M1	高井 勇牙
		200m背泳ぎ			
卓球競技	男子団体の部		優勝	E5	平沢 朋幹
				C5	鈴木 雄心
				C4	栗野 興紀
				E4	鈴木 大心
				M4	山竹 壱佳
				S4	勝又 柊二
				M3	富坂 聖司
				E3	鈴木 亨征
				E2	小泉 優弥
				D2	松永 立樹
				E2	豊泉 諒馬
	E1	伏見 優希			
	男子個人の部	シングルス	優勝	E5	平沢 朋幹
ダブルス		優勝	E5	平沢 朋幹	
			C4	栗野 興紀	

第6回全国高等専門学校弓道大会東海・北陸地区予選入賞者

競技名	種目名	成績	クラス	氏名
弓道競技	男子個人の部	3位	S5	中嶋 佑斗

行事・コンテスト・その他イベント

体 育 祭

新しい体育祭

体育祭実行委員長 電気電子工学科4年
加藤 亮 大
物質工学科4年
大角 流 丸

今年度はこれまでの体育祭と異なり新しく「青春リレー」、「e-sports」を取り入れてみました。今までの体育祭の問題点として、出場人数が限られ体育祭で暇をもてあましてしまう人が見られたことです。その問題を解決するため、今回新しく取り入れた全員で参加できる「青春リレー」を行いました。私個人としては普通高校で行うような運動会を高専でも開きたかったのですが、学生の人数が1000人を超えるこの沼津高専で、限りある敷地や時間のなかで「全員リレー」や「綱引き」を行うのは、厳しいことではないかと考えました。しかし、この新しく取り入れた競技「青春リレー」、「e-sports」が予想よりも盛り上がっていてすごうれしかったです。実は、この「青春リレー」の裏には、いろいろなエピソードがあります。

最初は「ムカデリレー」を行う予定でした。しかし、練習不足による怪我などが懸念され一時期企画倒れしかけました。その後、ルール変更や使用するバンドの素材

などを見直し「青春リレー」の仮案ができました。ある日には高矢先生とE4加藤亮大と一緒にホームセンターに競技に使用するバンドを買いに行きました。ここでは、店員さんにも協力していただきベルトの長さなどを決め、その後、学校に戻って周りにも協力してもらい実際に学校や寮の道路を走りました。高矢先生も一緒にベルトの輪の中に入り走っていたのですが、先生だけ息の切れ方が異常だったのを覚えています。その後は各先生方にも協力してもらえよう「お願い」の紙を先生方の部屋に配りに行ったり、本格的に企画案を作ったり、時には遅くまで居残りしながら準備していました。初めての試みで大変なことばかりでしたが今となっては良い思い出です。

これからの体育祭はもっとみんなが楽しくなるイベントになってほしいと考えています。今までの体育祭を丸ごと変えるのもいいかもしれませんが、良いところもあったからこそ続いてきたと思います。「全員が役割を持ち、全員が参加できるイベント」というのが一番良い体育祭であると考えています。これから、委員長になる人は「良い体育祭」とは何かを考え企画してほしいです。新しいことへの挑戦は難しいですが、あきらめず頑張ってください。周りには協力してくれる友達や先生方がいます。

最後に、根気良く何時でも相談に乗ってくださった高矢先生、青山先生、協力してくださった先生方、本当にありがとうございました。今後も体育祭をよろしく願います。

高 専 祭

高専祭だより

高専祭実行委員長 電子制御工学科4年
岩崎 竜 星

今年度は「響音 (harmony)」というテーマのもと高専祭を行いました。令和という新しい元号を迎えての最初の高専祭。学生と教職員の方々、高専祭に来場される皆様方、様々な人が関わるこの高専祭でそれぞれの個性が最大限に発揮され一つの素晴らしい鎗物になるようにと願いを込めこのテーマにしました。また「令和」には世界が調和され、平和が永遠に達成されるというメッセージがあるのではないかと言われています。新元号にもあやかってみようではないかということでもあります。

高専祭には今年も多くのお来場者様のおかげで無事終わることができました。しかし二日目はメインステージを

体育館で行ったため多くの方の混乱を招いてしまったことをこの場を借りてお詫び申し上げます。一日目終了後に天気予報を見て雨日程の決断をしました。できる限りの準備をしたところ準備の甲斐があったのか見事に晴れてしまいました……。急遽の変更になってしまったものの迅速な対応を取ってくれた実行委員会、スタッフのみんなには感謝しかありません。

僕はこの高専祭に一年生の時からスタッフとして参加しています。高専祭のスタッフはボランティアです。各々が自分の時間を割いて協力してくれています。スタッフに参加することが当たり前ではないなか多くの学生がこのスタッフ活動に参加してくれています。実際にこの高専祭のスタッフ活動を通して僕自身大きく成長できたところがあると思います。多くの人と関わることで高専生活が充実したとも言えます。いつかは学生全員で作り上げ全員で楽しめるような高専祭になることを願っています。

高専祭は回数を重ねるごとにどんどん進化しています。毎年のように新たな取り組みを試みています。今年度は

5年生が中心となり、高専で培ってきたものを一般のお客様向けに体験型の技術展示として披露すること卒業展示を初めて開催しました。来年度はどのような高専祭になるか僕自身とても楽しみにしています。まだ高専祭に行っていないという方にぜひ足を運んでいただきたいと思っています。

知財の寺子屋活動報告

KV-BIKEと駿河湾深海調査は未来への扉

知財のTKY顧問
大津孝佳

Society5.0を担う価値創造型の未来産業人材育成を目指し、『知財のTKY「寺子屋」』を設立し、5年目を迎えることができました。地域特性を活かし、TRIZ（特許分析から生まれた発想法）を武器に、本物への挑戦を通して、課題発見し、アイデアを創造し、解決に挑む。特に、理想と現実を理解し、その差を明確にすることで技術課題の解決策を育むといったEducation-TRIZの『トングモデル』の実践を行っています。主な活動は、(1)未来モビリティ産業の地域特性を活かし、充電式単三電池40本で鈴鹿サーキットの国際レーシングコースや、ツインリンク茂木のスーパースピードウェイに挑むKV-BIKE（電池自転車）のレースへの挑戦。(2)日本一深い駿河湾（深海2500m）の地域特性を活かした駿河湾沼津の深海調査活動です。

KV-BIKEでは、エネルギーマネジメントをするために、様々な工夫をしています。その結果、大学高専部門では、2016 Ene-GP MOTEGI全国大会優勝、2017 Ene-GP SUZUKA全国大会準優勝、2017 Ene-GP MOTEGI全国大会優勝／クラスI「一般・大学・高専」部門「総合3位」、2018 Ene-GP MOTEGI全国大会準優勝、2019 Ene-GP SUZUKA全国大会3位、2019 Ene-GP MOTEGI全国大会3位です。特に、茂木大会では4年連続表彰台に輝いています。本活動にご支援・ご協力頂きました本校教育後援会並びに同窓会の皆様には心より感謝申し上げます。また、2018年度より、電気電子工学科のご支援・ご協力の下、三島市の「中学生」チームのサポートを行っています。中学生部門の成果は、2018 Ene-GP MOTEGI全国大会優勝、2019 Ene-GP SUZUKA全国大会優勝、2019 Ene-GP MOTEGI全国大会優勝／クラスII「高校・中学」部門「総合3位」と目を見張るような素晴らしい成績を残すまでに成長しました。このKV-BIKE（電池自転車）は地域特性を活かし、未来型電気モビリティ教材、オリンピック選手に電気力で挑戦などにも活用して行きたいと思います。

駿河湾深海調査ではリアルタイムモニタリングシステ

最後にありますが、毎年のように高専祭が開けているのはスタッフ活動に参加してくれる学生、それを支えてくれる教職員の方々、地域の皆様のおかげです。本当にありがとうございました。そしてこれからもよろしくお願ひします。

ム（DREAM）を開発し、2016年海底100m（DREAM_I）、2017年230m（DREAM_II）を達成しました。その後、新たに、4K映像撮影システム（PIXY_I）を開発し、2018年530mと1030mに成功しました。そして、2019年にはライトの耐圧性を改善し、PIXY_IIにて、深海1530mの4K撮影に成功しました。それらの結果を日本動物学会中部支部大会で発表し、ポスター発表では「リアルタイムシステムを用いた駿河湾沼津の深海100～200mの調査」が優秀賞、「4K動画撮影システムを用いた駿河湾沼津の深海500～1500mの調査」が優秀賞と最優秀賞に値する大会委員長賞を頂きました。更に、口頭発表では「沼津高専生による駿河湾深海1500mへの挑戦」が優秀賞と大会委員長賞を頂くことができました。『KV-BIKEや深海調査は未来への扉です。』知財創造教育や環境エネルギーなどとコラボして、未来の扉の鍵を一緒に探しましょう。



ロボットコンテスト2019

小さな、でも、確実な一歩 ～ロボコン部の挑戦～

ロボコン部顧問 電子制御工学科
青木 悠 祐

日頃よりロボコン部の活動へのご理解とご声援をありがとうございます。今年度も高専ロボコン東海北陸地区大会が10月20日(日)にウィングアリーナ刈谷 メインアリーナ(愛知県刈谷市)にて開催されました。

2019年度の競技課題は、らん♪ RUN Laundry (らん・ラン・ランドリー)、“洗濯物干し”です。本物のTシャツ・バスタオル・シーツを、フィールドに設置された3本の物干しざおにロボットが美しく干していきます。ハンガーや洗濯ばさみ、洗濯かごを上手に活用しながら、2台のロボットやチームメンバーが助け合って競技を行います。

沼津高専からはAチーム「[[dx (チンアナゴパラダイス)」、Bチーム「ぺんぎん日和 (ペンギンビヨリ)」の2チームが出場しました。ロボコン部部长E3 榊原君のもと、AチームリーダーM3 大山君、BチームリーダーE3 長田君を中心として総勢38名の部員たちが連日作業を

小さな一歩

ロボコン部部长 電気電子工学科3年
榊原 あおい

高専ロボコン、というものをご存知でしょうか。NHKが主催する「アイデア対決・全国高等専門学校ロボットコンテスト」という名称で、毎年異なる課題に挑戦するロボットを製作し、全国の高専で競い合う大会です。各高専からは2チームが出場し、選ばれた25チームが全国大会へと進みます。4月に競技課題が発表され、10月に地区大会、11～12月に全国大会が行われます。その大会に挑むべく、高専に存在する部活動が、ロボコン部というものです。競技課題は、積み箱、ちゃんばら、ペットボトルフリップと様々です。今年は洗濯物干しでした。ロボットと人とが協力し、Tシャツ、バスタオル、シーツといった洗濯物を3種の物干し竿に干す課題です。

10月20日愛知県のウィングアリーナ刈谷 メインアリーナにて、東海北陸地区大会が開催されました。今年も沼津高専から2チームが出場し、両チームとも1勝1敗と何とも言えない結果に終わりました。ただ、一昨年や去年は初戦敗退という結果に終わっていたため、両チーム1勝というのは、小さな一歩になっていると思います。

私は、この小さな一歩から大きな一歩へと、来年は変

進めました。

大会では共に予選リーグ1勝1敗となり、決勝リーグに進むことはできませんでしたが、どちらのチームも1勝できたことは大きな成果でした。特にBチームは洗濯物を回収し、畳み直してロボットにセット、物干し竿に干す、という1連の流れを手動ロボットで実現することができ、1勝を挙げることができました。近年、競技で得点することができないことが続きましたが、今大会で得点することができたことは学生たちにとっても今後につながる良い出来事でした。Aチーム「[[dx」は洗濯物を回収するロボットにできることを最大限アピールし、審査員判定にて1勝することができました。このロボットの回路や制御プログラムは2年生が開発しましたので、思い描いたアイデア通りのロボットを開発できたことは今後につながると思っています。

ここ数年、大会に求められるようになってきた自動ロボット開発についてはまだまだ課題が残っています。今後、オフシーズンを利用してしっかり技術を確立できるよう、引き続き見守りつつ、背中を押したいと思います。

部長の榊原君も書いていますが、全国大会出場に向けた小さな一歩、今年度は本当に小さな、でも確実な一歩を実感した年でした。次年度に向けて、新チームでの活動が始まっています。今後ともロボコン部の活動へのご理解と部員たちへのご声援をよろしくお願いいたします。

えていきたいと思っています。それには、今年の問題を大幅に改善する必要があります。今年の問題はいくつかありました。まず、マネジメントがいないことです。今年、人員不足により、事務仕事とロボットの製作や開発に関わる仕事の両方を担う上級生が多くいました。結果、どちらも中途半端に終わり、満足のいかないものとなってしまいました。先を見通すことが出来ず、仕事が停滞してしまう事態が多くありました。次に、アイデアが弱いところです。アイデア出しに関して、特別に対策をしていませんでした。アイデアを募る際、方法は色々ありますが、いざアイデア出しをすると途端にアイデアは出てこなくなります。対策をしなかった今年は、アイデアを決めるまでに時間がかかってしまいました。また、良いアイデアだったのかというのを首をかしげてしまいます。最後に、雰囲気作りが出来ていなかったことです。私自身、皆をまとめる役職に初めて就き、うまく率いることができませんでした。

来年度、私はもう一度部長を務めさせていただきます。今年経験し得た知識を用いて、露呈した問題に対策を練りながら、部員全員で全国を目指したいと思います。これからも応援をよろしくお願いします。

退職教職員から



万年過渡期

総務課

八木 正行

昭和55年に沼津高専に採用されてから、途中で遺伝学研究所、静岡大学、名古屋工業大学、高専機構本部での勤務を経て、最後は故郷の沼津高専で定年を迎えることになりました。

採用時は、人事係に配置され、当時はPCなどの便利な道具はなく、付けペンで原議書を作成していました。給与も、電卓を叩いて計算していましたので、人事給与システムや表計算ソフトを使って、すぐに答のでる現代とは雲泥の差があります。

コンピューターの利用が一般的になり、機械任せにできる仕事も増えて、ある面では楽になった一方で、特に質の面で、ヒトでなければできない仕事も増えています。リスクマネジメント、コンプライアンス、ガバナンス、

情報セキュリティなど、横文字の仕事への対応を求められ、便利になった反面、様々な仕事が増え、学校全体が多忙になっています。

昔、年号が平成に変わった頃、当時オフコンと呼ばれたコンピューターが導入され、COBOLというプログラム言語で教務・入試システムを構築し、過渡期だから忙しいのは仕方ないねと上司や同僚と慰めあい、その後もLANとPCが導入され、電子メールでやり取りするようになってからも、電子メールは見ないので紙でなくては受付けないという方がいて、過渡期だから慣れるまでは仕方ないと諦め、いつも何かしらの新しい仕事が舞い降りてきて過渡期が当たり前だったような気がします。

これからも、5G、AIなど、情報化がどんどん進み、RPA（事務処理の自動化）も当たり前になるかもしれませんが、一方でヒトが補わなければならない仕事もより複雑化して無くなることはないと思います。

頭も体も固くなる一方ですが、新年度からも再雇用で沼津高専に引き続きお世話になりますので、現役世代の負担を少しでも減らせるよう頑張る所存です。

今後とも、どうぞよろしくお願いたします。

卒業生・修了生から

高専生活を振り返って

電子制御工学科5年

山崎 蒼人

早いもので、入学したときは長いと思っていた高専での生活も、あと少しで終わりを迎えようとしています。この5年間はあっという間に過ぎていき、もうすぐ卒業だというのにあまり実感がありません。

入学当初は初めて親元を離れての寮生活や、授業についていけるのか、人間関係をうまくできるのかなどの不安が大きかったことを覚えています。しかし時間が経つにつれ高専での生活にも慣れ、気の合う友人もできてこの環境がとても居心地の良いものになっていきました。私は、1、2年次は寮で生活していました。寮生活は寮の規則や上下関係など、大変だったことも多くありましたが、それ以上に寮祭や階でのイベントなど楽しかったこともありました。2年間の寮生活を通して、しっかり相手とコミュニケーションをとることの大変さや大切さを学ぶことができました。また、新しい環境で人間関係を作れたという自分の自信にもなりました。この先、環境が変わることが多くあると思うので、その時にこの経

験を活かしていきたいと思います。勉学に関しては、学年が上がるにつれて専門的な内容も増えてきて理解するのが大変になっていきましたが、友人たちとお互いに教え合うことでお互いの理解が深まり、乗り越えることができました。そのおかげで、5年間単位を落とすこともなく、自分の納得のいく成績を取り続けることができました。また、私は水泳部に5年間所属していました。水泳部では先輩や同級生、後輩に恵まれ多くの思い出ができました。特に私たちの学年は仲が良く、楽しい時間を過ごすことができました。彼らとの思い出は私の中で大切なものとなっています。彼らがいなければ5年間楽しく部活を続けることはできなかったと思います。私は6歳の時から水泳を続けていたので、部内では経験者として、練習のメニュー作りや、泳ぎのフォームを教えたりすることもありました。それで少しでも部に貢献することができていればよかったです。高専大会では他校の高専生とも交流することができ、高専大会独特の雰囲気もあり毎年楽しむことができました。また、2、4、5年次には平泳ぎで全国大会出場という結果を残すこともできました。この結果を残すことができたのは、顧問の先生方や部活の仲間の支えがあったからだと思います。

最後にこの場を借りて、先生をはじめとする5年間の

高専生活でお世話になった多くの方々に感謝申し上げます。この5年間の経験を糧にこれからも頑張っていきたいと思います。

ここから本番

制御情報工学科5年
勝 又 将 斗

高専生活も終わりを迎え、来年には社会人として、新たなスタートラインに立つこととなります。兼ねてより希望していた企業に勤めることができるのは、沼津高専に来てなければかなえることができなかつたでしょう。

入学時、電気屋さんの店員さんに勧められるがまま、高額なオーバースペックのパソコンを買わされ、ダシにされてしまいました。そんな頃の私と比べると知識、技術面でも、人としても大きく成長できたと思います。沼津高専を選んだからこそ経験でき、私に一番影響を与えたことは、寮生活です。

内気な私は初めての共同生活にとっても困惑し、初めはなじむことができませんでした。交流を重ねることにより少しずつ打ち解けることができました。中でも、夜

ほかの人の部屋に行き、語ることが一番楽しかった思い出です。毎日話し合い、夜中までバカ騒ぎをしました。

「18歳までに価値観が決まる」と教えてくれた方がいますが、私は16歳で寮生活を経験したからこそ、自分を知ることができ、変われました。今までは、当たり前だったことも当たり前ではないことも気づけ、とても充実した日々でした。

高専生は「生徒」とは違い「学生」です。普通高校より自由だからこそ計画性をもって、必要なことを自ら学び、行動しなければなりません。しかし、周りと比べ何もかも億劫になってしまうこともありました。そんな中、毎日お母さんの温かいご飯を食べたとき、また頑張ろうと思えました。精神面でとても救われました。本当にありがとうございます。まだまだ一人では何もできない私ですが、成長できた5年間であったと思います。

最後に、支えてくれた家族、先輩方、先生方、友達、本当にありがとうございました。これからは助けてくれた友人や家族が困っているときに手を差し伸べられる自立した大人を目指して頑張ります。

僕は高専7年生

医療福祉機器開発工学コース2年
日 原 究

表題の言葉を見たとき、本科生の方々は留年したのかと考えると思います。しかし、この言葉はそういった意味ではなく、私が高専関係者以外の人に自己紹介するときを使うものです。私が所属している高専専攻科というのは、はっきり言って知名度はかなり低いです。高専に関係していなかった方からするとただでさえ「高専って4年制だけ？」や「工業高校と似た学校だよな？」等、5年制であることも知られていない中、「専攻科2年生です」と言ったりすれば疑問に疑問を重ねられてしまいます。なので、私は専攻科を説明するときに「大卒扱いになる高専の7年制のコースに通っているのですよ」と簡単に言ってしまう。他の専攻科生もこの説明に頭を抱えていることが多く、こういった話題は尽きません。

一方で、知名度が低く、説明に窮する専攻科ですが、決して中身が無いなどということはありません。むしろ本科や大学にない強みがあります。コース別の実験では本科では学ぶことができない実践的な実習を行います。少数精鋭を掲げるだけあり、一つの講義を受講する学生の人数は本科と比べて断然少なく、先生に直接質問できるし、授業の質はとても高いです。また、人数が少ない

分、同級生とかかわる機会が多く、他分野の研究について議論を交わしたり、その中で同じ分野の研究者とは異なる観点を認識できたりと、本科にはない経験を積むことができます。さらに、大学院進学を考える人にとっては、大学院の研究室の多くが専攻科を高く評価していること、専攻科1年次の学外実習で実際に大学院の研究室に所属して研究を経験できること、そして沼津高専との協定締結大学をはじめ優れた大学院に専攻科推薦選抜制度があることが強みにあります。

もう一つ、専攻科の良いところといえば何と言っても同じ研究室に3年間所属できるということです。本科5年次の研究を引き続き行うこともできるので、専門性が大幅に向上し技術者としてのレベルアップを格段に図ることができます。私の所属している鄭研究室では人工知能の分野にとっても積極的に取り組んでおり、研究環境が十二分に整っていることもあり、有意義な研究室生活を過ごせました。

最後になりましたが、お世話になりました先生、学校関係職員、先輩、同級生、後輩の皆様、本当にありがとうございました。そしてこれからもよろしくお願ひします。



私の高専時代



高専の思い出

制御情報工学科6期
松本 祐子

20年前、私は制御情報工学科第6期生として沼津高専に入学した。当時はゲームプログラマーに憧れ、プログラミングを学ぼうと考えていた。

入学後、論理数学の授業を受け、なんだか中学校と違うと早々に実感した。これが数学なの？と戸惑った集合論、マグロウヒル大学演習の大量の問題は新鮮であり、専門科目を学んでいる嬉しさがあつた。楽しみにしていたプログラミングは、ポインタやオブジェクト指向でつまづき、何とかなつたがプログラマー志望ではなくなつた。

1年の担任だつた待田先生には、4年間数学を教わつた。今では許されないであろう自由な先生は、クラスは学生に任せ、時に行事の連絡を忘れることもあつた。私たちは「この学校は自分たちで動かないとまずい」と気づき、クラス委員は「みんなちゃんとしてよ」と世話を焼くお母さんと化した。先生は、数学の授業では一変して生き生きとし、図形の美しさを語り、微分積分から複素関数論まで一貫した流れで教えてくれた。大学編入後、

流体力学が複素関数で記述される面白さを知り、渦の研究への第一歩を踏み出せたのは待田先生のおかげである。

高専に慣れてきた4年次、長谷先生の授業はインパクトがあつた。面白いことを「シビれる」「目からウロコ」と語りかける授業は講演のようだつた。内容も関数解析、解析力学と多岐に渡り、高校物理とは異なる次元からものごとを見る目を養っていただいた。他にも個性的な先生方はたくさんいたが、共通していたのは楽しそうに授業をする姿である。原稿を書きながら自分はどうかと反省している。また、女子学生は少なかつたが、学業に対して不当に甘くすることも厳しくすることもなく、平等に扱ってくださった。感謝している。

寮生活では、1年生の5月頃か、同室者と仲違いもし口もきかなくなつた。1年生は同じ階の者同士で朝食に行くという謎の習慣があり、私たちの階は1年生が自分達だけだつたため、しばらくの間2人とも無言で朝食を食べた。仲直りの理由も定かではないが、彼女のお母さんが「祐子ちゃんは浜松で、頻繁に実家にも帰れないんだから」と気を使ってくれたのがきっかけだつたのだと思う。長泉のお宅に泊まりに行くようになり、それは現在も続いている。私にとっては長泉の母である。

学生には高専で学べることは学び尽くし、たくさんの友人を作つてほしいと願う。教員として戻つてきた今、その一助になれば幸いである。

学生の研究活動 (2019.4.1~2020.3.31)

論文発表

(学生が第二著者等であってもすべて記載。賞を受賞している場合は、その名称を発表題名の後に赤字で記載。)

学科・学年	著者名 (共著含) (筆頭著者に○)	論文誌名、巻号(年)頁	論文題名	指導教員
AC2	○Koki SHIMIZU (清水香樹) Yusuke SUZUKI Taisuke YASUDA Shizuo SUZUKI (鈴木静男)	Theory and Applications of GIS Vol. 28, No. 1 (2020) pp. 13-19	Areal changes of coastal forests focusing on black pine and all other species in Miho no Matsubara and Senbon Matsubara	鈴木静男
D5	○佐々木謙人 山路倍弘 橋本敬之 北本朝展 鈴木静男	GIS - 理論と応用 Vol. 27, No. 2 (2019) pp. 159-159	伊豆地域における古文書のディープラーニングを用いた文字認識の予備的調査	鈴木静男
AC2	宮下 昂 大 稲津 晃 司 ○白井 慧 前田 恭 吾 眞中 雄 一 田 旺 帝 本 倉 健	ACS Organic Letters, 21(23), (2019) 9372-9376	Multifunctional Catalytic Surface Design for Concerted Acceleration of One-Pot Hydrosilylation-CO ₂ Cycloaddition	稲津晃司

講演発表

(登壇者が学生の場合又はそれに相当する場合のみ記す。講演論文集が4頁程度であっても講演発表に含める。賞を受賞している場合は、その名称を発表題名の後に赤字で記載。)

電子情報通信学会 コミュニケーションクオリティ研究会
広島市立大学/2019.5.31

学科・学年	学生氏名	講演発表題名	指導教員
MC1	鈴木康介	IEEE802.11acにおけるフレームアグリゲーション最適化に関する理論検討	山崎悟史

ロボティクス・メカトロニクス講演会2019 in Hiroshima
広島国際会議場 (広島市)/2019.6.5-8

学科・学年	学生氏名	講演発表題名 (共同研究者名)	指導教員
MC1	田中健太	超音波断層像処理に基づくプローブ走査パラメータの推定	青木悠祐
MC1	三浦凜太郎	OST-HMDを用いた断層像重畳表示による超音波診断支援システムの提案	青木悠祐
MC1	大村陸	テニスにおけるフォアハンドストローク計測に基づく熟練手技解析	青木悠祐
MC1	石川仁	橋梁下面における作業員負荷軽減ロボットユニットRoHSUの開発と社会実装実験	青木悠祐
MC2	田中哲太	超音波診断における体動・プローブ走査補償のための特徴量抽出	青木悠祐
MC2	部谷若菜	超音波診断におけるメンタルローテーション能力の計測と体内情報可視化システムの構築	青木悠祐

2019年電気学会産業応用部門大会
長崎大学文教キャンパス/2019.8.20

学科・学年	学生氏名	講演発表題名	指導教員
EC2	青山雄輝	VFMを用いた三相マルチレベルインバータの制御	高野明夫

2019年電気学会産業応用部門大会
長崎大学/2019.8.20-22

学科・学年	学生氏名	講演発表題名 (共同研究者名)	指導教員
D5	宮林宏行	トルクと磁束を分離可能なIPMSMの弱め磁束制御 (鈴木昭義)	大沼巧
EC1	遠山暉大	IPMモータの最大トルク制御座標系の位相測定法 (若子純平)	大沼巧

第24回知能メカトロニクスワークショップ in Ueda (IMEC2019)
信州大学繊維工学部/2019.9.2

学科・学年	学生氏名	講演発表題名	指導教員
S5	伊藤信秀	患者の動向監視支援システムの開発 —呼吸状態の検出—	藤尾三紀夫

令和元年電気学会基礎・材料・共通部門大会
岩手大学上田キャンパス理工学部/2019.9.3-4

学科・学年	学生氏名	講演発表題名 (共同研究者名)	指導教員
EC1	増田俊平	三角波印加時における高分子絶縁材料の誘電特性 (遠山和之)	遠山和之

植物細胞分子生物学会第37回大会
京都府立大学/2019.9.7-8

学科・学年	学生氏名	講演発表題名	指導教員
EC1	稲葉蒼一郎	チャ不定胚誘導におけるトランスクリプトーム解析	古川一実
AC1	望月秀斗	マンニトール濃度と導入DNAの形状がチャ (<i>Camellia sinensis</i>) 不定胚の形質転換に与える影響	古川一実

電子情報通信学会 ソサエティ大会
大阪大学豊中キャンパス/2019.9.13

学科・学年	学生氏名	講演発表題名	指導教員
MC1	鈴木康介	802.11acにおける理論スループット上限とフレーム集約数のトレードオフについて	山崎悟史

第124回触媒討論会
長崎大学文京キャンパス/2019.9.20

学科・学年	学生氏名	講演発表題名 (共同研究者名)	指導教員
AC2	宮下昂大	クエン酸塩法で調製した混合酸化物を前駆体とする鉄-コバルト系触媒を用いたアンモニア合成	稲津晃司

第9回CSJ化学フェスタ2019
タワーホール船堀/2019.10.17

学科・学年	学生氏名	講演発表題名	指導教員
AC2	宮下 昂大	混合酸化物を前駆体とした鉄-コバルト系アンモニア合成触媒 (優秀ポスター発表賞)	稲津 晃司

日本機械学会 山梨講演会2019
山梨大学工学部/2019.10.19

学科・学年	学生氏名	講演発表題名	指導教員
M5	佐野 笙太郎	曲げモーメントを受けるフランジ締結体の密封特性 (ボルト位置の影響)	小林 隆志
M5	山口 陸	ボルトの締付け時及び緩め時のボルト応力の変化挙動	小林 隆志
EC2	野木 遼亮	曲げモーメントを受けるフランジ締結体のガスケット応力解析	小林 隆志
EC1	渡瀬 慎之輔	ボルトの締付け時及び緩め時のボルト応力とナット回転角の関係	小林 隆志

第28回地理情報システム学会研究発表大会
徳島大学 (徳島市)/2019.10.19

学科・学年	学生氏名	講演発表題名 (共同研究者名)	指導教員
D5	佐々木 謙人	伊豆地域における古文書のディープラーニングを用いた文字認識の予備的調査 (ポスターセッション賞受賞)	鈴木 静男
D5	藤田 将史	空中写真を用いたスギ及びヒノキ林の自動識別	鈴木 静男
D5	増田 大勢	レーザ計測による海岸林の林分構造推定に関する予備的調査	鈴木 静男
MC1	土屋 美童	富士市有林におけるスマート林業に向けた調査方法の予備検討	鈴木 静男
MC2	石田 智士	機械学習を用いた沼津市周辺における放棄茶園探索	鈴木 静男
AC2	清水 香樹	機械学習を用いた海岸林の樹種判別と面積評価に関する予備的調査	鈴木 静男
EC2	諏訪 尚也	空中写真による竹林成長速度の定量とその要因推測	鈴木 静男

日本コンピュータ化学会秋季年会
JMSアステールプラザ/2019.10.24

学科・学年	学生氏名	講演発表題名	指導教員
C5	百瀬 陸	MD法によるMFI型ゼオライトのチャンネル構造の熱的変化の研究	大川 政志
C5	金刺 りお	MD法によるSilicalite-2の熱膨張挙動の研究	大川 政志
C5	田中 健人	MD法によるフェリエライトのチャンネル構造の熱的変化の研究	大川 政志

The 24th Shizuoka Forum on Health and Longevity
Shizuoka Convention & Arts Center (GRANSHIP)/2019.11.5

学科・学年	学生氏名	講演発表題名	指導教員
D5	米持 春樹	Development of a training equipment for skeletal muscles using biological signals	小谷 進
C5	高須 麗奈	Preliminary study for the determination of phenolic components in Kosencha: a secondary processed tea	芳野 恭士

電子情報通信学会 センサネットワークとモバイルインテリジェンス研究会
構造計画研究所 (本所新館)/2019.11.6

学科・学年	学生氏名	講演発表題名 (共同研究者名)	指導教員
S5	中嶋 佑斗	農業IoT向けSigfoxネットワークの構築と基礎実験	山崎 悟史

4thSTI-Gigaku 2019
長岡技術科学大学/2019.11.8-9

学科・学年	学生氏名	講演発表題名	指導教員
AC2	増田 裕	Release of Protein from the Silica- Cholesterol-bearing Hyaluronic Acid Hybrid Hydrogel	山根 説子

2019年度精密工学会北陸信越支部学術講演会
長岡技術科学大学/2019.11.9

学科・学年	学生氏名	講演発表題名	指導教員
S5	伊藤 信秀	患者の動向監視支援システムの開発 —第三者侵入の検出—	藤尾三紀夫
S5	三戸 尚樹	患者の動向監視支援システムの開発 —患者パラメータの自動設定について—	藤尾三紀夫

第57回燃焼シンポジウム
札幌コンベンションセンター／2019.11.20-22

学科・学年	学生氏名	講演発表題名	指導教員
AC2	千葉友稀	Ti5Si3の燃焼合成 —相対密度および粉末粒径の影響—	新富雅仁

富士山麓アカデミック&サイエンスフェア (A&S) 2019
キラメッセめまづ／2019.11.27

学科・学年	学生氏名	講演発表題名	指導教員
MC2	松井陽樹	ロバスト安定性を保証した磁気浮上システムにおける非接触搬送系の構築	三谷祐一郎
EC1	野木遼亮	引張りと曲げの複合荷重を受けるフランジ締結体の密封限界に関する研究	小林隆志
AC2	吉田和也	コンタクトエピタキシャル法を適用したCe置換型YIG結晶薄膜の形成	野毛悟
D5	今泉肇 西島海渡	全方位カメラを用いたロボカップJr.サッカー用機体の開発 (ポスター賞受賞)	川上誠
D5	大森和哉 板屋醍嗣	病院と連携した薬剤管理補助システムの開発	川上誠
D5	小池勇太	自律走行ロボットへのRTK-GNSSの搭載と高精度位置情報の利用	牛丸真司
D5	佐々木謙人	深層学習による古文書の文字認識の試み —伊豆地域を例として—	鈴木静男
D5	藤田将史	森林の針葉樹種判別を空中写真から自動で行う試み —伊豆半島を例として—	鈴木静男
D5	増田大勢	海岸林の立地環境の解析 —三保松原と千本松原を例として—	鈴木静男
D5	川口大和	小型汎用記録計の検定装置の開発	大庭勝久
D5	鈴木慧人	二線式温度流速計における遅延補償系の設計・評価	大庭勝久
D5	中村美月	パイプライン処理による熱流体計測アルゴリズムの高速化に関する検討	大庭勝久
D5	渡邊昌浩	打音検査機のデータ収録システムの開発	大庭勝久
D5	古川陽太	作業員負荷軽減ロボット開発を通じた社会実装実験の定量評価 (ポスター賞受賞)	青木悠祐
D5	深谷祥平	検査者のプローブ走査手技を支援する超音波診断支援ロボットの設計	青木悠祐
D5	杉山矢紘	超音波診断支援のためのOST-HMDを用いた視線誘導システムの構築	青木悠祐
D5	佐野元康	超音波診断における臓器追従を目的とした体動補償システムの構築	青木悠祐
D5	伊吹幸輝	テニスにおけるルーティン行動が与える影響の定量評価	青木悠祐
EC2	内山恭輔	永久磁石同期モータの位置センサレス制御の改善	大沼巧
EC2	菊澤雅哉	定点カメラを用いた交通流計測システムの開発	鄭萬溶
EC2	諏訪尚也	竹林はどのような立地条件で成長が早いのか —空中写真を用いた解析例— (ポスター賞受賞)	鈴木静男
EC2	伊東大輔	熱流体計測器用のデジタル補償系の統合	大庭勝久
EC2	久保寺智哉	組込みデバイスをを用いた熱式速度センサの高精度化 (ポスター賞受賞)	大庭勝久
AC2	清水香樹	空中写真を用いたクロマツ及びその他樹種の自動抽出の試み —三保松原と千本松原を例として—	鈴木静男
MC2	石田智士	放棄茶園を空中写真から自動で識別する —沼津市における予備的調査—	鈴木静男
MC2	松下千紘	音響的特徴量及びCNNを用いた話者感情認識に関する検討	鄭萬溶
MC2	橋本宗汰郎	拡張性の優れた交通流シミュレーションシステムの設計	鄭萬溶
MC2	日原究	ドライブレコーダによる交通データ計測システムの開発 (ポスター賞受賞)	鄭萬溶
MC2	後藤健太	香煎茶の脂質代謝改善作用に関する研究	芳野恭士
AC2	宮下昂大	混合酸化物を前駆体とした鉄-コバルト系アンモニア合成触媒	稲津晃司
AC2	増田裕	シリカーコレステロール置換ヒアルロン酸ヒドロゲルから放出されたタンパク質の活性測定	山根説子

日本電子部品信頼性センター信頼性シンポジウム
大田区産業プラザ／2019.11.27-28

学科・学年	学生氏名	講演発表題名	指導教員
EC1	永尾優磨	光電界センサーを用いたロボットの誤動作に関する研究	大津孝佳
EC1	永尾優磨	超高感度紫外線カメラを用いた静電気放電現象の観察	大津孝佳

日本育種学会中部地区談話会第27回講演会
沼津工業高等専門学校／2019.11.30

学科・学年	学生氏名	講演発表題名 (共同研究者名)	指導教員
C5 C5	大久保 日奈 加藤 穂香	緑茶品種の <i>in vitro</i> 挿し木法の確立	古川一実

日本動物学会中部支部大会
金沢市文化ホール／2019.12.7-8

学科・学年	学生氏名	講演発表題名	指導教員
D2 E2 C1	浦田 楓真 荒川 琉平 宮崎 富一	ポスター発表「リアルタイムシステムを用いた駿河湾沼津の深海100～200mの調査」 優秀賞	大津孝佳
D3 E1	鈴木 檀 鈴木 悠矢	ポスター発表「4K動画撮影システムを用いた駿河湾沼津の深海500～1500mの調査」 優秀賞、大会委員長賞	大津孝佳
D3 D2 E2	鈴木 檀 浦田 楓真 荒川 琉平	口頭発表「沼津高専生による駿河湾深海1500mへの挑戦」 優秀賞、大会委員長賞	大津孝佳

第15回バイオマス科学会議
郡山市中央公民館／2019.12.11-12

学科・学年	学生氏名	講演発表題名	指導教員
C5	石塚 美音野	軽油溶媒下での木質バイオマスと石炭の共液化	伊藤拓哉
C5	梅澤 拓也	二層式渦巻状移動機構を備えた水平回転円炉コールドモデル内の粒子挙動及び圧力損失	伊藤拓哉
C5	篠原 玄太	ニッケル触媒充填固定層反応器を用いた動物油脂由来バイオディーゼル燃料の製造	伊藤拓哉
C5	鈴木 創太	竹チャーのガス化特性に関する研究	伊藤拓哉

2019年度精密工学会九州支部・中国四国支部共催佐世保地方講演会
佐世保高専／2019.12.14

学科・学年	学生氏名	講演発表題名 (共同研究者名)	指導教員
S5	伊藤 信秀	患者の動向監視支援システムの開発 —第三者侵入の検出—	藤尾三紀夫
S5	三戸 尚樹	患者の動向監視支援システムの開発 —患者パラメータの自動設定について—	藤尾三紀夫
MC2	青野 新大	患者の動向監視支援システムの開発 —転落の認識について—	藤尾三紀夫

日本機械学会東海学生会研究発表会・交流会
愛知工業大学本山キャンパス／2019.12.26

学科・学年	学生氏名	講演発表題名	指導教員
M5	加藤 颯基	ホールセンサを用いた磁気浮上制御系の設計	三谷祐一郎
M5	服部 徹郎	環境試験機における温湿度同時制御を行うための実験装置の開発	三谷祐一郎
M5	福崎 竜之輔	二次元単振りモデルを用いた液体搬送システム	三谷祐一郎

第25回 高専シンポジウム in Kurume
久留米シティプラザ／2020.1.25

学科・学年	学生氏名	講演発表題名 (共同研究者名)	指導教員
D5	今泉 肇 西島 海渡	全方位カメラを用いたロボカップJr.サッカー用ロボットの開発	川上 誠
D5	大森 和哉	調剤過誤防止システムの開発	川上 誠
D3 D4 E4	鈴木 檀 赤池 寛太 望月 万里衣	耕作放棄地の特徴 ～沼津市を調査して～	鈴木静男 中澤達夫
D4 E4 D4 D4	林直哉 杉山結紀 武田恋雅 露木大雅	PBLを通じた現状把握と提案次なる農業改革 ～Next Nacent Inovation with Technology～	鈴木静男 中澤達夫

S4	伊藤 ゆきの	PBLを通じた現状把握と提案：私たちの考える最強の農業	鈴木 静男 中澤 達夫
S4	魚尾 桃		
S4	寺田 香		
S4	三須 杏果		
M3	古田 皓 晟	数学を用いた防災用教材の開発	鈴木 正樹
M3	中野 友 暉	中学生向け防災用数学問題集の開発	鈴木 正樹
S3	高津 郎 真		
C2	原賀 紫 織	中学生のための体験授業 —数学で防災教育—	鈴木 正樹
S3	高津 郎 真		

電子情報通信学会センサネットワークとモバイルインテリジェンス研究会
名古屋大学 (IB電子情報館) /2020.3.2-3

学科・学年	学生氏名	講演発表題名 (共同研究者名)	指導教員
S5	中嶋 佑 斗	Sigfox通信に伴うエネルギー消費のモデル化 —農業IoTを想定とした実験的解析—	山崎 悟史

早稲田大学材料技術研究所 (環境整合材料基盤技術共同研究拠点) 2019年度成果報告会
早稲田大学材料技術研究所 /2020.3.4

学科・学年	学生氏名	講演発表題名 (共同研究者名)	指導教員
EC1	増田 俊 平	シラン架橋ポリエチレンの熱劣化が光吸収・発光特性に及ぼす影響 (遠山和之 (沼津高専)、山口 輝、平井直志、大木義路 (早稲田大学))	遠山 和之

2019年度先進的技術に関するシンポジウム
豊橋技術科学大学 /2020.3.5

学科・学年	学生氏名	講演発表題名 (共同研究者名)	指導教員
S5	中嶋 佑 斗	LPWA通信に伴うバッテリー寿命に関する実験的近似式の確立	山崎 悟史

情報処理学会第82回全国大会
金沢工業大学扇が丘キャンパス /2020.3.7

学科・学年	学生氏名	講演発表題名 (共同研究者名)	指導教員
S5	中嶋 佑 斗	Sigfox通信に伴うバッテリー寿命に関する実験的評価 —農業IoTを想定として—	山崎 悟史

第22回化学工学会学生発表会 (東京大会)
中央大学後楽園キャンパス /2020.3.7

学科・学年	学生氏名	講演発表題名	指導教員
C5	田中 佑 美	細菌の外膜タンパク質を用いた魚病に対するナノワクチンの開発	三留 規 誉
C5	成松 慎之佑	等温滴定型熱量測定によるATP解離定数の解析に向けたFoF1-ATP合成酵素εサブユニットの精製	三留 規 誉
C5	杉崎 練	In Fusionクローニング法によるクラミドモナス葉緑体FoF1-ATP合成酵素の変異プラスミドの作製	三留 規 誉

第51回学生会卒業研究発表講演会 TOKAI ENGINEERING COMPLEX 2020 (TEC20)
名城大学 /2020.3.9

学科・学年	学生氏名	講演発表題名 (共同研究者名)	指導教員
MC2	松井 陽 樹	3軸ステージにおける多目的制御則を用いた非接触搬送系の構築	三谷 祐 一 朗

令和2年電気学会全国大会
東京電機大学 /2020.3.11-13

学科・学年	学生氏名	講演発表題名 (共同研究者名)	指導教員
D5	杉山 康 恭	過変調領域における埋込磁石同期モータの最大トルク応答制御の解析的考察	大沼 巧
D5	庄司 悠 汰	PENマイクロ発泡樹脂の交流損失電流波形 (土屋優貴、遠山和之 (沼津高専)、池田佳祐、武藤大介 (古河マグネットワイヤ(株))、富澤恵一 (古河電工(株)))	遠山 和之
EC1	増田 俊 平	シラン架橋ポリエチレンの熱劣化が光吸収・発光特性に及ぼす影響 (遠山和之 (沼津高専)、山口 輝、平井直志、大木義路 (早稲田大学))	遠山 和之
EC2	鈴木 昭 義	IPMSMの高トルク応答化のためのf-t座標系に基づく電圧振幅位相制御の検討	大沼 巧

The IEEJ International Workshop on Sensing, Actuation, Motion, Control, and Optimization (SAMCON2020)
Shibaura Institute of Technology, Tokyo / 2020.3.14-16

学科・学年	学生氏名	講演発表題名 (共同研究者名)	指導教員
S5	中 嶋 佑 斗	On Transmission Performance of Sigfox in Agricultural IoT Applications (Y. Nakazima, W. Yamanouchi, S. Yamazaki)	山崎 悟史

2020年度精密工学会春季大会学術講演会
東京農工大学小金井キャンパス / 2020.3.17-19

学科・学年	学生氏名	講演発表題名 (共同研究者名)	指導教員
S5	伊 藤 信 秀	患者の動向監視支援システムの開発 —第三者の検出—	藤尾三紀夫

電子情報通信学会総合大会
広島大学東広島キャンパス / 2020.3.17-20

学科・学年	学生氏名	講演発表題名 (共同研究者名)	指導教員
MC1	鈴 木 康 介	誤り環境におけるフレームアグリゲーションを考慮したWi-Fiスループットの理論検討	山崎 悟史

日本化学会第100春季年会 (2020)
東京理科大学野田キャンパス / 2020.3.22-25

学科・学年	学生氏名	講演発表題名	指導教員
AC2	増 田 裕	PEG含有シリカ-CHAハイブリッドヒドロゲルから放出されたタンパク質の活性測定	山根 説子

第125回触媒討論会
工学院大学西新宿キャンパス / 2020.3.26-27

学科・学年	学生氏名	講演発表題名	指導教員
C5	大 林 蓮	高圧アンモニア合成条件下での炭素担持ルテニウム触媒からのメタン生成	稲津 晃司
AC2	宮 下 昂 大	工業条件下でのアンモニア合成反応の停止・再開における鉄触媒の挙動とその原理	稲津 晃司

日本育種学会第137回講演会
東京大学弥生キャンパス / 2020.3.27-28

学科・学年	学生氏名	講演発表題名	指導教員
C5	大久保 日 奈	緑茶品種の <i>in vitro</i> 挿し木法の確立	古川 一実



令和元年度卒業生・修了生進路先一覧

機械工学科

36名

令和2年3月9日現在

就職先企業

23名

株式会社明電舎	1
三菱重工業株式会社	1
富士森永乳業株式会社	1
駿東伊豆消防本部	1
株式会社吉野工業所	1
森永乳業株式会社	1
三菱電機エンジニアリング株式会社 静岡事業所	1
株式会社電業社機械製作所	1
旭化成株式会社	1
株式会社 日立産機システム	1
浜松ホトニクス株式会社	1
JXTGエネルギー株式会社	1
オークマ株式会社	1
株式会社ジェイテクト	1
本田技研工業株式会社	1
東急電鉄株式会社	1
サントリービール株式会社	1
東芝機械株式会社	1

ANA ベースメンテナンステクニクス株式会社	1
ANAエンジンテクニクス株式会社	1
株式会社資生堂 掛川工場	1
スズキ株式会社	1
セイコーエプソン株式会社	1

進学（編入学）先大学等

13名

東北大学工学部	1
筑波大学理工学群	2
新潟大学工学部	2
長岡技術科学大学工学部	1
山梨大学工学部	1
豊橋技術科学大学工学部	3
オレゴン州立大学（予定）	1
沼津工業高等専門学校専攻科	2

電気電子工学科

37名

就職先企業

20名

東芝プラントシステム株式会社	1
飯田電機工業株式会社	1
三菱電機ビルテクノサービス株式会社	1
株式会社日立ビルシステム	1
日本オーチスエレベータ株式会社	1
株式会社ヤクルト本社	1
中外製薬工業株式会社	1
ファナック株式会社	1
東京エレクトロン株式会社	2
三菱電機プラントエンジニアリング株式会社	1
株式会社明電エンジニアリング	1
富士電機株式会社	1
セイコーエプソン株式会社	1
中部電力株式会社	1
日本アイ・ビー・エム テクニカル・ソリューション株式会社	1
東海旅客鉄道株式会社	1
中日本高速道路株式会社	1
株式会社JALエンジニアリング	1
国立研究開発法人日本原子力研究開発機構	1

進学（編入学）先大学等

14名

東北大学工学部	1
東京農工大学工学部	2
東京工業大学工学院	1
横浜国立大学理工学部	1
豊橋技術科学大学工学部	3
豊田工業大学工学部	1
沼津工業高等専門学校専攻科	5

その他

3名



電子制御工学科

38名

就職先企業

15名

シブヤ精機株式会社	1
東海旅客鉄道株式会社	1
ヤマハモーターエンジニアリング株式会社	1
キャノン株式会社	1
明電システムソリューション株式会社	1
浜松ホトニクス株式会社	1
東レ株式会社	1
東レエンジニアリング株式会社	1
旭化成株式会社	1
三菱エンジニアリング株式会社	1
株式会社資生堂	1
東芝キャリア株式会社	1
パナソニック株式会社インダストリアルソリューションズ社	1
パナソニック ITS株式会社	1
株式会社オリジナルソフト	1

進学（編入学）先大学等

20名

電気通信大学情報理工学域	1
新潟大学工学部	1
長岡技術科学大学工学部	2
名古屋大学情報学部	1
豊橋技術科学大学	3
九州大学工学部	1
公立はこだて未来大学システム情報科学部	1
沼津工業高等専門学校専攻科	10

その他

3名

制御情報工学科

44名

就職先企業

22名

株式会社小松製作所	1
明電システムソリューション株式会社	1
テルモ株式会社	1
NHKテクノロジー株式会社	1
株式会社ビーネックスソリューションズ	1
AppBank株式会社	1
株式会社ハンズ	1
株式会社アイ・エス・ビー	1
株式会社マイスターエンジニアリング	1
日立造船株式会社	1
株式会社江戸川造船所	1
鈴茂器工株式会社	1
埼玉県警察	1
浜松ホトニクス株式会社	1
富士フイルムビジネスエキスパート株式会社	1
ABB日本ベレー株式会社	1
日本アイ・ピー・エム テクニカル・ソリューション株式会社	1
東芝キャリア株式会社	1
ローランド株式会社	1
キャノン株式会社	1
日本たばこ産業株式会社	1
株式会社ルーイダ	1

進学（編入学）先大学等

19名

筑波大学情報学群	1
宇都宮大学工学部	1
東京農工大学工学部	1
電気通信大学情報理工学域	1
新潟大学経済学部	1
長岡技術科学大学工学部	1
和歌山大学システム工学部	2
広島大学教育学部	1
早稲田大学先進理工学部	1
沼津工業高等専門学校専攻科	9

その他

3名



物質工学科

39名

就職先企業

19名

マツダ株式会社	1
株式会社資生堂	1
日本ミクニヤ株式会社	1
第一三共プロファーマ株式会社	1
東邦化工建設株式会社	1
東レエンジニアリング株式会社	1
旭化成株式会社	1
JXTGエネルギー株式会社	1
サントリーホールディングス株式会社	1
東レ株式会社	1
味の素食品株式会社	1
浜松ホトニクス株式会社	1
ジェイカムアグリ株式会社	1
エリエールペーパー株式会社	1
興和株式会社	1
星光PMC株式会社	1

株式会社リコー	1
高砂香料工業株式会社	1
株式会社日立ハイテクフィールドディング	1

進学（編入学）先大学等

20名

東北大学理学部	1
筑波大学生命環境学群	1
東京工業大学生命理工学院	1
お茶の水女子大学理学部	1
新潟大学理学部	1
長岡技術科学大学工学部	4
金沢大学理工学域	1
岐阜大学応用生物科学部	1
名古屋工業大学工学部	1
豊橋技術科学大学工学部	4
京都工芸繊維大学工芸科学部	1
沼津工業高等専門学校専攻科	3

環境エネルギー工学コース

9名

就職先企業

5名

株式会社ビーネックスソリューションズ	1
川崎重工業株式会社	1
東芝インフラシステムズ株式会社	1
株式会社インフォマティクス	1
株式会社ニコンシステム	1

進学（編入学）先大学等

4名

東京医科歯科大学大学院 医歯学総合研究科	1
横浜国立大学大学院 理工学府	1
長岡技術科学大学大学院 工学研究科	1
名古屋大学大学院 工学研究科	1

新機能材料工学コース

7名

就職先企業

3名

日星電気株式会社	1
富士電機株式会社	1
東芝キャリア株式会社	1

進学（編入学）先大学等

3名

筑波大学大学院 数理物質科学研究科	1
東京工業大学大学院 物質理工学院	1
豊橋技術科学大学大学院 工学研究科	1

その他

1名

医療福祉機器開発工学コース

11名

就職先企業

8名

パナソニック株式会社 アプライアンス社	1
白井国際産業株式会社	1
ソニーグローバルマニュファクチャリングアンドオペレーションズ株式会社	1
キャノン電子株式会社	1
オリンパス株式会社	1
株式会社アイ・エス・ビー	1
富士フイルムメディカル株式会社	1
東海部品工業株式会社	1

進学（編入学）先大学等

3名

東京医科歯科大学大学院 医歯学総合研究科	1
北陸先端科学技術大学院大学 先端科学技術研究科	1
奈良先端科学技術大学院大学 先端科学技術研究科	1

教育後援会から

高専の強みは協働により 更に高められる！

教育後援会会長 井出 悟

卒業生の皆さま、ご卒業おめでとうございます。また、本日まで立派にご息女・ご息女を育ててこられた保護者の皆様にも、心よりお祝いを申し上げます。卒業生の皆さんは、この5年間に色々な出来事があったことと思います。

学んだこと。失敗したこと。頑張ったこと。楽しかったこと。さまざまなことが頭に浮かぶと思います。どうか何よりも、この沼津高専で打ち込んだ日々のこと、沼津の人と出会ったことを思い出し、次のステージへまた一歩踏み出して頂ければと思います。

この度、卒業を迎えた保護者の皆様におかれましては、入学式での初々しい姿、中学校を卒業し親元を離れ初めての寮生活に送り出した時の何とも言えない複雑な気持ち、寮生活での楽しさや苦しさを受け止めた時の息苦しさなど、ご息女・ご息女と共に乗り越えて来たあの頃の思い出が少しずつ蘇って来られるのではないのでしょうか。

教育後援会の活動も大きく変化し、学校との協働により学生の学びの環境を更に高めるために、双方向の対話

を重視した活動へと転換してまいりました。例えば5つの地区別支部会や、3つの部会による自主自律的な活動によって、学生の学びの成果を最大化させるために、教育後援会がすべきことを真剣に考えて頂ける機会が増えています。

今後も更に多くの保護者の皆様に教育後援会の活動にご参画頂き、学生の学びの環境を更に高めるためにお力添え頂ければ幸いです。

技術の進展により、我々はより豊かな生活を送れる機会を得ています。世界中の人々を幸せにするという、技術開発に課せられた「世の期待」に答えることができるのが「人の良い技術者」として成長した沼津高専の学生であると確信しています。教育後援会は、人間味あふれる人格形成と、どの様な困難にも立ち向かうことができる足腰の強い技術者育成の両立、という高い目標を持って学生の指導をしている学校の両輪として、今後もより一層、学校と緊密な連携を持って活動していくことが重要だと考えます。

本年は2020東京オリンピック・パラリンピックが開催されるなど、大転換期となることが想定されます。新しい令和の時代を支える「人柄の良い技術者」として、沼津高専の卒業生の皆様が世界中で活躍されることを大いに期待しております。

同窓会から

同窓会へようこそ

同窓会会長 木戸 実 (M6)

卒業・修了おめでとうございます。沼津高専での学業を終えて新たな一歩を踏み出す皆さんへ、ここでエールを贈ります。慣れた生活を離れる解放感と淋しさ、これから取り組む新しいテーマや目標に思いを馳せて、その夢や期待、併せて漠然とした不安など、この節目に思い描くことはどんなことでしょうか。

社会には常に問題や課題が溢れています。今、特に注目を集めているのはSDGsです。国連サミットで採択された持続可能な開発目標SDGsには、貧困・飢餓・平等・公平公正・安全・働きがい・まちづくり、様々な課題が項目立てされています。これらは地球規模の大変大きなテーマですが、その解決のためにはビジネス、経済活動を重ね合わせることの必要性が多く語られています。皆さんの仕事にもこのテーマは欠かせません。これらを個々に追及しブレークダウンし、また連携して、試行錯誤を

重ねていくところに、皆さんの活躍の場が待っています。出来ることから始めて、未知の目標をクリアしながら、素晴らしい未来を切り拓いてください。大きな可能性を持つ皆さんにその力があります。

少子高齢化、人手不足が加速する日本で、ワークライフバランスの実現も課題解決の手段の一つです。長時間労働から脱却して、成果をあげ、多様性と主体性を生かした働きやすい職場づくり、対応には大きな発想の転換が必要です。また根本的な改革も伴います。ここでも主役となるのは過去の常識に捉われない、柔軟な発想をもった、更に技術的アプローチの素養を身に着けた若者、皆さんです。卒業後のそれぞれの場での皆さんの活躍を願っています。

時にはうまく進まず立ち止まることや一人では立ち行かなくなることもあるでしょう。そんな時は職場の同僚や関係する人たち、仕事以外の繋がり、家族や友人など、いろいろなつながりが大事な要素となります。その中に沼津高専同窓会をぜひ加えてください。この同窓生のネットワークを大いに利用していただき、折りあるごとに情報を交換したり、新しい未来を一緒に考えたりしてい

ましよう。お待ちしております。

沼津高専の共通する思い「人柄のよい優秀な技術者となって世の期待に応えよ」この言葉をこれから新しい時

代へ羽ばたいていく皆さんに、改めてお贈りしたいと思います。

お知らせ

海外留学プログラムについて

若い間に海外の文化や生活を経験することは、皆さんにとって貴重な経験になります。以下に皆さんが応募可能なプログラムを列挙します。詳細は学生課まで問い合わせして下さい。

【本校が行っているもの】

- 専攻科海外長期インターンシップ
- アメリカ異文化体験&語学研修

【高専機構が行っているもの】

- 国際シンポジウム (ISTS) (タイ)
- 高専生のための英語キャンプ (シンガポール)
- テクニカルチャレンジプログラム (香港)
- オーストラリア語学研修
- プログラムチャレンジinシンガポール
- オタゴ・ポリテクニク就業体験プログラム (ニュージーランド)
- チェンマイ大学語学研修・文化体験 (タイ)
- タマサート大学留学プログラム (タイ)
- シンガポールポリテク交流イベント
- KPU派遣プログラム (カナダ)

【文部科学省トビタテ留学JAPAN】

- 大学生等コース
- 高校生コース
- 未来テクノロジー人材枠
- ふじのくにグローバル人材育成事業

【自治体等が実施しているもの】

- 高校生姉妹都市 (カラマズー市) ホームステイ体験「沼津市」
- 友好都市 (岳陽市) 留学生派遣 (隔年実施)「沼津市」
- 短期留学交流事業 (中国浙江省内大学)「静岡県」
- 日中青少年代表交流事業「静岡県教育委員会」
- 静岡県国際交流プログラム「静岡県青年海外研修協会」
- 青年国際交流事業 (世界青年の船他)「内閣府」

令和2年度前期授業料の免除および徴収猶予について

経済的理由により授業料納付が困難で、学力優秀と認められる本科4・5年生および専攻科生を対象に、令和2年度前期授業料免除および徴収猶予の申請を受け付けています。申請方法は下記のとおりです。申請を希望する場合は学生課学生係へ書類を取りに来てください。また、すでにご案内済みの令和2年度より開始する高等教育の修学支援新制度についてもご検討ください。

なお、本科1～3年生は、原則として「就学支援金」制度により助成が行われます。

記

申請方法	所定様式の申請書を学生係へ提出する。
提出期限	令和2年3月31日(火) ※申請を希望する場合は、学生係へ書類を取りに来てください。 申請者には必要提出書類について案内いたします。
注意事項	※必要書類は、必ず学生係からの案内を確認の上、ご準備願います。 ご不明な点がございましたら、学生課学生係 (055-926-5734) にお問い合わせください。

各種奨学金について

令和元年度に募集が行われた主な奨学金

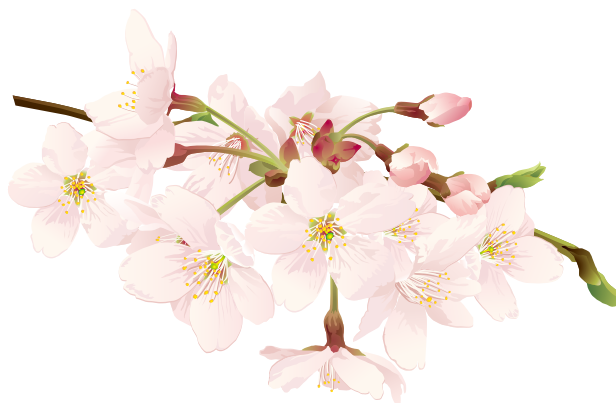
No.	奨学金名	対象学年	応募資格	金額	返還	募集時期	
1	【貸与型】 日本学生支援機構奨学金	第一種 (無利息)	全学年	経済的理由により修学に困難がある優れた学生	月額1万円～5万1千円(入学年度、通学形態(自宅通学・自宅外通学)によって定められた2種類の額のいずれかを選択する)	要	4月
		第二種 (有利息)	本科 4・5年生 専攻科生		月額2万円～12万円(11種類の貸与月額から自由に選択できる)		
2	【給付型】 日本学生支援機構奨学金	本科3年生	翌年度に本科4年生への進級又は大学・短期大学・専修学校(専門課程)への進学を予定しており、以下のいずれかの区分に該当する者 【第Ⅰ区分】申請者と生計維持者の市町村民税所得割が非課税であること 【第Ⅱ区分】申請者と生計維持者の支給額算定基準の合計が100円以上25,600円未満であること 【第Ⅲ区分】申請者と生計維持者の支給額算定基準の合計が25,600円以上51,300円未満であること	月額5千9百円～3万4千2百円(国立高専の場合) ※家計区分・在学中又は進学先大学等の設置者(国公立、私立)・通学形態(自宅通学、自宅外通学)により決まる	不要	6～7月	
		本科4年生 専攻科1生	2019年度の実施であり、翌年度も本校に在籍する学生に対して行う予約採用 応募資格は上記3年生対象の家計区分と同じ			11月	
3	天野工業技術研究所奨学金	本科5年生	※学内選考の上、推薦基準該当者のみに案内	年額24万円	不要	4月	
4	公益財団法人ウシオ財団奨学金	本科5年生	※学内選考の上、推薦基準該当者のみに案内(専攻科に進学予定の者)	月額6万円	不要	4月	
5	静岡県高等学校等奨学金	本科 1～5年生	保護者が静岡県内に居住しており、以下のいずれかに該当する世帯の者 ①生活保護を受給している ②市町民税が非課税になっている ③市町民税が減額になっている ④世帯全員の収入合計が生活保護基準額の1.5倍以下である	自宅通学： 月額1万8千円 自宅外通学： 月額2万3千円	要	4月	
6	関育英会奨学金	本科2年生	人物・学業とも優秀かつ健康でありながら、学資の支弁が困難と認められる者	月額2万円	要	4～5月	
7	あしなが育英会奨学金	全学年	保護者等が、病気や災害もしくは自死等で死亡したり、それらが原因で著しい後遺障害を負い、教育費に困っている家庭の学生	月額4万5千円(貸与2万5千円、給付2万円)	要	4～12月	
8	公益財団法人エンケイ財団奨学金	本科 4・5年生 専攻科生	※学内選考の上、推薦基準該当者のみに案内	年額24万円	不要	5月	
9	川村育英会奨学金	本科3年生	以下の条件を全て満たす者 ①生計をひととする家族の年間収入(祖父母の年金収入は除く)が500万円以下 ②成績証明書(前年度学年末時点)記載の学業成績に占める、A評価の割合が50%以上	月額2万円	不要	5～6月	

No.	奨学金名	対象学年	応募資格	金額	返還	募集時期
10	公益財団法人タミヤ奨学会奨学金	本科5年生	以下の条件を全て満たす者 ①国内の4年制大学に進学する者 ②学業・人物ともに優秀かつ健康な者 ③経済的理由から就学が困難な者 ④応募時の現住所が静岡県内である者 ⑤兄弟姉妹がタミヤ奨学金を受給していない者	月額2万5千円	不要	9～12月
11	公益財団法人スズキ教育文化財団大学奨学金	本科5年生	以下の条件を全て満たす者 ①4年制以上の大学に進学予定の者 ②向上心が強く、学業、人物とも優秀かつ健康であって、経済的理由により修学に専念出来ない者 ③大学入学後、給付、貸与を問わず他のいかなる奨学金も受給しない者	月額5万円	不要	12～1月
12	沼津中央ライオンズ基金奨学金	本科 1・2年生	以下の条件を全て満たす者 ①沼津市に保護者と共に居住している者（ただし、寮生の場合は出身が沼津市内であれば可） ②品行方正、学業優秀又は一芸に秀でその道で将来を嘱望されている者で、かつ経済的援助が必要と認められる者	月額1万5千円以内	不要	11～1月
13	熱海市育英事業奨学金	全学年	以下の条件を全て満たす者 ①保護者が熱海市内に居住している者 ②翌4月に本校に在学している者又は大学（専攻科を含む）に進学する者 ③経済的理由により修学困難な者 ※その他学力・所得要件有り	本科1～5年生：月額1万9千円以内 専攻科生・大学生：月額4万4千円以内	要	11～1月
14	ビヨンドトゥモロー ジャパン 未来スカラシップ・プログラム	本科3年生	以下の条件を全て満たす者 ①次の一つ以上に該当すること 保護者が死亡／単親家庭（母子、父子家庭等）／児童養護施設に暮らしている／里親家庭に暮らしている／生活保護受給世帯に暮らしている ②年間を通じて開催される各種プログラムに参加する意志があること ③オリエンテーション・プログラムへの参加を確約できること	年額50万円	不要	11月

※奨学金募集の有無・募集時期は、年度によって異なる場合がありますので、ご確認願います。

※申請者全員が採用されるとは限りません。

※上記以外にも、地域で奨学金の募集を行っている場合があります。詳しくは、お住まい地域の自治体へお問い合わせください。



沼津工業高等専門学校意見箱について

本校では、より良い環境の下で、良質な教育を提供することに努めており、それには、保護者及び学生の皆様から寄せられる「声」は非常に重要なものです。そこで、本校の学校運営に関する課題・問題点を早期に把握し、その改善に資することを目的として『沼津工業高等専門学校意見箱』を設置しております。皆様からの学校運営に関する率直なご意見、ご要望、ご指摘等ございましたら、下記メールアドレス宛にお寄せください。

メールアドレス：ikenbako@numazu-ct.ac.jp

※注意事項

- (1) ご意見等に対し、回答を要する場合は、学生所属クラス・保護者氏名または学生氏名を明記してください。匿名メールにつきましては、受付・調査等を行います。原則として回答はいたしません。
- (2) ご意見等をお寄せいただいた方の不利益にならないように取扱います。(ただし、虚偽の通報、他人を誹謗中傷する通報、その他不正を目的とする通報の場合を除きます)
- (3) 意見箱は週1回程度チェックします。
- (4) 受信メールの内容が高専機構に関するもので、高専機構の「公益通報の処理等に関する規則」に規定する通報に該当する場合には、当該規程により取扱います。
- (5) 公開が必要と認められる事案については、その結果を公表する場合があります。

行事予定表

2020年

4月 入学式・入寮式
始業式・対面式・健康診断
クラブ紹介
1年合宿研修

5月 1年授業参観・クラス懇談会
2～4年クラス懇談会
スポーツ大会・学生総会
寮祭
2021年度専攻科推薦入学試験

6月 前期中間試験
防災訓練・高専大会壮行会
東海地区高専体育大会(～7月)
2021年度専攻科学力入学試験

8月 一日体験入学
1～4年保護者懇談会
全国高専体育大会

9月 寮生リーダー研修会
前期末試験
2年生特別研修
4年生海外研修

10月 高専プログラミングコンテスト
全国高専ロボットコンテスト東海北陸地区大会
体育祭・学生総会
文化講演会

11月 高専祭・体験授業
授業参観・学科説明会
全国高専ロボットコンテスト全国大会
後期中間試験

2021年

1月 専攻科1年長期インターンシップ中間報告会
2021年度推薦選抜入試
専攻科2年研究発表会

2月 卒業研究発表
学年末試験
2021年度学力選抜入試
終業式
寮生リーダー研修会
専攻科1年長期インターンシップ最終報告会

3月 卒業式・修了式

「沼津高専だより」に関するお問い合わせ

出版委員会 (事務担当：総務係)

Tel : 055 - 926 - 5712 E-Mail : soumu@numazu-ct.ac.jp

